

# パーパス 実現への 取り組み

2022 年版シスコ パーパスレポート



画像提供: Solar Sister



  
CISCO



## はじめに

シスコの概要、パーパス（存在意義）、2022年度の進捗状況。

# シスコのパーパスについて

シスコのパーパスは「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」ことです。「実現」、「インクルーシブ」、「未来」はシスコのパーパスを構成する3つの重要な柱です。シスコのパーパスレポートと環境、社会、ガバナンス(ESG)の重点分野も、この3つの区分に沿って構成されています。ですが、シスコのパーパスを表す文言の中で最も重要な言葉は、おそらく冒頭にある「すべての人」です。お客様やステークホルダーとのパートナーシップやコラボレーションをバリューチェーン全体、業界全体で推進すれば、私たちの取り組みを何倍にも広げ、より大きな影響をもたらすことができます。



## 実現

世界の接続を安全に実現するテクノロジーを倫理的に構築して提供する。



## インクルーシブ

公平性、インクルージョン、機会への公平なアクセスを促進するために大胆かつ慎重に行動する。



## 未来

地球の未来を持続可能かつ再生可能なものにする。

このレポートには将来の出来事に関する見通しを示す記述が含まれています。史実の記述を除くすべての記述は、将来の見通しを示す記述とみなされる可能性がある記述です。それらの記述は、シスコがビジネスを行っている業界に関する現在の期待、予想、予測、推定、およびシスコ経営陣の信念と想定に基づいています。将来の見通しを示すこれらの記述は予測に過ぎず、予測困難なリスク、不確実性、想定 (Form 10-K および Form 10-Q で証券取引委員会に提出した最新の書類に記載されているものを含む) の影響を受けることにご注意ください。将来の見通しを示す記述はその記述を行った時点でのものであり、シスコは将来の見通しを示す記述を更新するいかなる義務も負いません。



# パーパス実現 への取り組み

シスコの従業員は日々、「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」取り組みを通じてプラスの影響を与え、世界中でシスコのパーパスを実現しています。

シスコは、インターネットを支える技術の分野で世界をけん引しています。シスコの製品やサービスには、ネットワーク、コラボレーションソリューション、セキュリティソリューション、ワイヤレスおよびモビリティ、データセンター、IoT、ビデオ、分析、ソフトウェアソリューションがあります。

516 億  
米ドル  
2022 年度  
売上高



83,300 人  
従業員数  
95 か国  
事業を展開して  
いる国

1984 年  
創業

画像提供: Technician (ノースカロライナ州立大学)、  
撮影: Sarah Cochran 氏

## このレポートの内容

このパーパスレポートでは、「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」というパーパスに向けた 2022 年度のシスコの進捗状況を紹介していますが、シスコではこのレポートの他にもさまざまな進捗情報を公開しています。シスコの [ESG レポートハブ](#) では、このレポートで取り上げたさまざまなトピックに関する詳細情報を提供しています。また専門家向けに会社方針（ポリシー）の公開や追加の情報開示も行っています。このレポートでは、詳細情報を参照できる ESG レポートハブの各ページへのリンクを適宜提供しています。



## Chuck Robbins からのメッセージ

**シスコが Corporate Citizenship Report を初めて発行したのは 2005 年のことです。ESG の取り組みに関するシスコの進捗状況を紹介するというシンプルな目的のレポートでした。**

今皆様が目にしているこのレポートは、「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」というシスコのパーパスに基づいた構成になっています。このパーパスをシスコが実現している様子をさまざまな事例を通じて紹介しています。シスコは、サステナビリティ、インクルージョンと多様性、人権、教育、経済発展、危機対応といった重要な分野にシスコがもたらした影響を毎年公開しています。私たちはお客様を支援し、従業員を気遣い、地域社会に貢献するためにさまざまな取り組みを行っており、そうした活動がシスコという企業を形作っています。これは今も 20 年前も変わっていません。

世界がこの数年見舞われている困難な状況は誰にも予測できませんでしたが、1 つだけ確かなことがあります。それは、シスコがお客様の力となりビジネス上の重要な問題を解決してだけでなく、この世界をすべての人にとってより良い場所にするために重要な役割を果たしていくということです。シスコは目標を明確に設定し、進捗状況を測定しているため、説明責任を果たすことができ、体験や仕事から学んだことを共有できるのです。

私たちは日々、テクノロジー、専門知識、組織力を活用して進歩を促進しています。たとえば戦争の影響を受けているウクライナの従業員、お客様、地域社会を支援し、シスコの社会正義に関する信念とアクションを実現し、私たちのビジネスやエコシステム全体でサステナビリティの取り組みを推進しています。

シスコは 2001 年に国連グローバルコンパクトの 10 原則に署名しており、それらの原則に沿った活動を展開しています。

**「持続可能で公平な事業運営こそが、ビジネスを行う唯一の方法であるとシスコでは考えています」**

シスコには模範を示す責任があり、その自覚に基づいて地域社会を支援し、社会正義を実践し、私たちを取り巻く世界を気にかけてきた豊富な実績があります。それはシスコのカルチャーに深く根付いており、日々のビジネス運営の中核になっています。シスコは今後も、従業員、テクノロジー、イノベーションの力を結集して、課題を抱えていらっしゃるお客様を支援し、不平等に対処し、地球を守り、これまで以上にインクルーシブな機会を創出することによって人々の豊かさに貢献していきます。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

**Chuck Robbins**  
会長兼 CEO



# Francine Katsoudas からのメッセージ

**「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」。このシスコのパーパスは旅のようなものです。**

私たちは、企業として築いてきた独自の強みと経験を活かして人々の生活をあらゆる場所で向上させるために全力で取り組んでおり、その責任を深く感じています。私たちを旅に駆り立てたのはこの使命感と責任感です。シスコのあらゆる活動の根源であるつながる力を活用すれば、さまざまな社会問題に対処できることを私たちは知っているのです。

私たちはこの旅を何年も続けてきました。今後どのような道筋をたどっていくのか、どのような障害が待ち受けているのかは分かりませんが、パーパスを達成しようという思いが私たちを前進させ、危機に対応する力を授けてくれます。シスコのテクノロジー、人材、ネットワークを活用すれば、情報格差を解消し、気候変動の問題に取り組み、より多くの機会をより多くの人々に提供できます。

この旅は自問自答の連続であり、臨機応変な対応が求められます。進んでいる道が正しいかどうか判断するにはどうすればよいか？進歩していることを確認するにはどうすればよいか？私たちが測定しているのは何なのか？それは指標として適切なのか？

取り組みが進むにつれて、影響を与えるのに効果的な方法も明らかになってきます。常に答えが得られるとは限りません。間違いを犯すこともあるでしょう。しかし、失敗は成長の糧です。失敗から学ぶことで、与えた影響や貢献できた人々という真に重要な指標に近づいていけるのです。

このレポートでは印象的な数字を強調していますが、本当に大切なのはその背後にある人間のドラマです。Cisco Networking Academy で学んだ人の数が 1,750 万人に達したというのは驚くべき数字ですが、コースを修了してまた学校に戻った人や、資格を取得して最初の仕事に就いた人にとっては、これは単なる数字ではなく、人生の転機となる体験です。私たちは人々に影響を与え、学校をつなぎ、地域社会に貢献するたびに、シスコのパーパスを実現しています。シスコのパーパスは、数字や統計を超えて私たちを導いていく北極星なのです。



**「私たちは人々に影響を与え、学校をつなぎ、地域社会に貢献するたびに、シスコのパーパスを実現しています」**

私たちは、旅を進めるにつれてより大きな影響を与えられるように努めていきます。ビジネス、社会、環境のあらゆる課題に敢然と立ち向かいます。シスコが支援できる人々のことを考え、正義と公正を実現するために行動します。常に成功するとは限りませんが、道を外れたり使命を忘れてすることはありません。シスコのお客様、従業員、パートナーや投資家の皆様にこの旅に加わっていただき、すべての人にとって真にインクルーシブな未来を力を合わせて実現してまいります。

**Francine Katsoudas**

エグゼクティブ バイスプレジデント兼  
最高人材活用 / ポリシー / パーパス責任者

# 2022 年度のハイライト

## シスコの従業員

3年連続で  
**80% 超**  
の従業員がコミュニティに貢献  
する活動に参加

新入社員から管理職レベルでアフリ  
カ系アメリカ人 / 黒人 (AA/B) であ  
ることを自認する従業員の割合が

**60%**  
増加 (2020 年度基準)

**第 3 位**

Great Place to Work の「世界で  
最も働きがいのある職場 2022」  
で 3 位にランクイン

## グローバルコミュニティ

社会貢献のための助成金と独自の  
プログラムによって  
**8 億 4,800 万人**  
がプラスの影響を受ける (2016 ~  
2022 年度)<sup>1</sup>

毎年開催している Cisco Global  
Problem Solver Challenge の第 6 回  
大会で  
**100 万米ドル**  
を授与 (うち 30 万米ドルは気候変動  
対策に充当)

Cisco Networking Academy で  
学んだ人の 1997 年からの累計が  
**1,750 万人**  
に到達

シスコおよび Cisco Foundation が地域プログラムに  
**4 億 9,400 万米ドル**  
の現金および現物を寄付 (Cisco Networking  
Academy に対する 3 億 7,700 万米ドルの現物寄付を  
含む)

ウクライナへの支援としておよそ  
**600 万米ドル**  
相当のシスコ機器と 300 万米ドル超の助成金を提供  
し、従業員が 25 の非営利団体に 150 万米ドル超を  
寄付

## 環境

バリューチェーン全体で  
**2040 年までにネット  
ゼロにする**  
というシスコの目標を Science  
Based Targets イニシアチブ  
(SBTi) が承認<sup>2</sup>

スコープ 1 および 2 の温室効果ガス  
(GHG) 排出量を  
**39%**  
削減 (2019 年度基準)

シスコ製品に使用されるプラスチックの  
**50%**  
(重量基準) を 2025 年度までにリサ  
イクル素材にする目標を設定<sup>3</sup>

シスコの事業活動において  
**89%**  
を再生可能エネルギーから調達

Cisco Foundation が気候変動対策  
に約  
**1,100 万米ドル**  
を拠出

**第 1 位**

2022 年の Gartner サプライチェーン  
のトップ 25 (3 年連続で第 1 位に  
選出)

<sup>1</sup> シスコから社会貢献のための助成金を受けた組織の一部は、他の組織からも資金提供を受けています。2022 年度のデータは現在、独立機関による限定保証を得ているところですが、2016 年度から 2021 年度までの間にプラスの影響を受けた人についての前年度の報告の詳細については、シスコの報告基準および独立保証報告書 (限定) を参照してください。2016 年度から 2022 年度までの保証報告書にアクセスするには、PDF ファイルをダウンロードし、Adobe Acrobat Reader で開いてください。条件に同意してクリックすると全文にアクセスできます。

<sup>2</sup> スコープ 1、2、3 の絶対排出量を 2019 年度比 90% 削減。残りの排出量は大気中から同量を除去することで中和。

<sup>3</sup> この目標では、サプライヤから調達される汎用部品 (プラスチック製のネジ、ファン、ケーブルなど) に含まれているプラスチックは対象外です。

注: 年度で記述されている目標の進捗状況は、いずれも会計年度末までの期間において測定したものです。



# ESG の重要性とレポート

シスコの戦略計画の取り組みやレポートでは、シスコが重視している ESG のトピックを理解することが不可欠になります。2021 年度に実施した最新の包括的な ESG 重要性評価<sup>1</sup>では、表 1 に示す 18 の ESG トピックが優先トピックに選定されています。この評価では複数の方法が使用されており、投資家、分野の第一人者、シスコの従業員（シスコの従業員リソース組織であるグローバル インクルーシブ コミュニティ、エグゼクティブ、セールス担当者など）から直接寄せられた意見、ステークホルダーからの問い合わせの分析、ピアベンチマークが反映されています。私たちは政府、非営利団体、多国間組織、同業者などさまざまなグローバル組織やローカル組織と年間を通じて提携して ESG プログラムを策定し、その範囲を拡大しました。2022 年度には、ESG の重要性に関する中間評価を実施して、ステークホルダーの優先トピック、シスコのビジネスや戦略における変化、世界情勢が最新の包括的評価に反映されていることを確認しました。この中間分析の結果、優先トピックの選定が適切であることが確認されています。

シスコの ESG レポートは、Global Reporting Initiative (GRI)、サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)、CDP (旧 Carbon Disclosure Project) が定めた基準に準拠しています。

ほかにも、ESG の取り組みでは国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の多くの目標に合わせて対象を設定しています。17 の SDGs は、2030 年までに人々と地球にとってより良い世界を構築するための枠組みを定めており、世界中の政府や組織が実施するように設計されています。SDGs が成功するためには世界全体の協力と意欲的なコミットメントが必要です。ここで掲げられている考え方は、インクルージョンやすべての人のために機会を創出していくという私たちのコミットメントと一致しています。

レポートで取り上げる次のトピックの詳細については、シスコの [ESG レポートハブ](#)をご覧ください。

- [シスコの戦略](#)
- [ステークホルダーの参画と ESG の重要性](#)
- [主要な評価とランキング](#)
- [会社方針、立場、指針](#)

表 1: ESG の重点分野と各区分の対応<sup>1</sup>

ESG のトピック	レポート区分
サプライチェーンにおける人権と労働条件	実現
コーポレートガバナンス	実現
ビジネス倫理	実現
データセキュリティとプライバシー	実現
イノベーションと責任あるテクノロジー	実現
デジタルインクルージョン	実現
インクルージョンと多様性	インクルーシブ
従業員の安全衛生と労働者の権利	インクルーシブ
従業員の心身の充実	インクルーシブ
人材	インクルーシブ
コミュニティへの貢献	インクルーシブ
人間にとって重要なニーズと災害救援	インクルーシブ
経済力向上	インクルーシブ
気候変動と温室効果ガス (GHG)	未来
循環型設計とライフサイクル管理	未来
環境保護	未来
事業廃棄物	未来
水	未来

<sup>1</sup> 本 Web サイトやシスコの ESG レポート、ESG の重要性評価プロセスで用いられている「ESG の重要性」は、証券取引委員会 (SEC) の開示義務のコンテキストで用いられている「重要性」とは異なります。ESG レポートの目的および ESG 戦略の決定の目的で重要とみなされる問題は、SEC レポートの目的では重要とみなされない場合があります。また、ESG レポートに情報を含めることで、そのトピックまたは情報がシスコのビジネスまたは業績に重要であることを示すこともありません。



# 目標と進捗状況

私たちは、従業員の参画を促し、環境に対する影響をバリューチェーン全体で低減し、「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」というパーパスを達成することを企業目標に掲げており、その実現に向かって取り組んでいます。このレポートでは、2022 年度の私たちの進捗状況について詳しくご紹介します。

## インクルーシブ

### シスコの従業員

#### 22 年度までに：

80% の従業員がコミュニティに貢献する活動に参加（強い関心のある理念への賛同、ボランティア活動、寄付、コミュニティにプラスの影響を与えるプログラムへの参加など、従業員の行動を測定して評価）。

→ 3 年連続で 80% 超の従業員がコミュニティに貢献する活動に参加

### グローバルコミュニティ

#### 25 年度までに：

社会貢献のための助成金と独自のプログラムを通じて、10 億人にプラスの影響を及ぼす。

→ 2016 年度から 2022 年度の間に 8 億 4,800 万人にプラスの影響<sup>1</sup>

#### 32 年度までに：

Cisco Networking Academy を通じて今後 10 年間で 2,500 万人にデジタルスキルやサイバーセキュリティスキルのトレーニングを提供。

→ 23 年度の新目標：未報告

### 社会正義アクション

前年比でない指標は 2020 年度を基準年度としています。

#### 23 年度までに：

社会正義アクション 2、従業員の多様性促進：新入社員から管理職レベルでアフリカ系アメリカ人 / 黒人であることを自認する従業員の割合を 2023 年までに従業員全体で 25%、取締役からバイスプレジデント以上の役職で 75% 増加（2020 年度基準）。

→ 60% 増加（新入社員から管理職レベル）、94% 増加（取締役）、160% 増加（バイスプレジデント以上の役職）

#### 24 年度までに：

社会正義アクション 7、サプライヤの参画：多様なサプライヤへの支出を倍増させることでサプライヤ戦略を拡大するとともに、推奨サプライヤの 95% から多様性の指標に関するレポートを取得するという目標を実現。<sup>2</sup>

→ 多様なサプライヤへの支出が 2022 年度に 28% 増加

→ 2022 年度の推奨サプライヤの 90% から多様性の指標を取得

#### 25 年度までに：

社会正義アクション 8、HBCU への投資：歴史的黒人大学（HBCU）のレガシーとサステナビリティを維持するために 1 億 5,000 万米ドルの資金を提供。うち 5,000 万米ドルは STEM 教育に、1 億米ドルはテクノロジーの近代化に充当。

→ 2,500 万米ドルを STEM 教育に支出

→ 2,520 万米ドルをテクノロジーのアップグレードに支出

#### 25 年度までに：

社会正義アクション 10、パートナーエコシステムの多様性促進：シスコのパートナーエコシステムの多様性を高めることに 5,000 万米ドルを投資し、アフリカ系アメリカ人 / 黒人が所有するテクノロジー企業の数を増やし、アフリカ系アメリカ人 / 黒人が所有するパートナーの財務的な成長を促す機会を拡大。

→ アフリカ系アメリカ人 / 黒人が所有する企業がパートナーエコシステムで増加

→ 14 のアクセラレーション パートナーに注力

#### 25 年度までに：

社会正義アクション 11、イノベーションへの投資：多様なリーダーが率いるスタートアップやベンチャーファンドに 5,000 万米ドルを投資。

→ BIPOC のリーダー、ラテン系リーダー、女性リーダーが率いるスタートアップやベンチャーファンドに継続的に投資

<sup>1</sup> シスコから社会貢献のための助成金を受けた組織の一部は、他の組織からも資金提供を受けています。2022 年度のデータは現在、独立機関による限定保証を得ているところです。2016 年度から 2021 年度までの間にプラスの影響を受けた人についての前年度の報告の詳細については、シスコの報告基準および独立保証報告書（限定）を参照してください。2016 年度から 2022 年度までの保証報告書にアクセスするには、PDF ファイルをダウンロードし、Adobe Acrobat Reader で開いてください。条件に同意してクリックすると全文にアクセスできます。

<sup>2</sup> この目標の対象期間は 2023 年（暦年）です。

注：年度で記述されている目標の進捗状況は、いずれも会計年度末までの期間において測定したものです。



目標と進捗状況の続き

## 未来

### 気候変動と温室効果ガス (GHG)

#### 2040 年までに ネットゼロの目標

スコープ 1、2、3 の絶対排出量を 90% 削減して GHG 排出量ネットゼロをバリューチェーン全体で達成<sup>1</sup> (2019 年度基準)。

→ 進行中。下の短期目標で進捗状況を報告しています。

#### 短期目標

##### 25 年度までに：

スコープ 1 とスコープ 2 の絶対排出量を 90% 削減<sup>1</sup> (2019 年度基準)。

→ 進行中。39% 削減

##### 30 年度までに：

購入した製品とサービス、輸送および配送 (上流)、販売した製品の使用によって排出されるスコープ 3 の絶対排出量を 30% 削減 (2019 年度基準)<sup>2</sup>。

→ 進行中。22% 削減 (シスコが現在使用しているスコープ 3 排出量の計算方法に基づく。今後変更される可能性あり)

##### 22 年度までに：

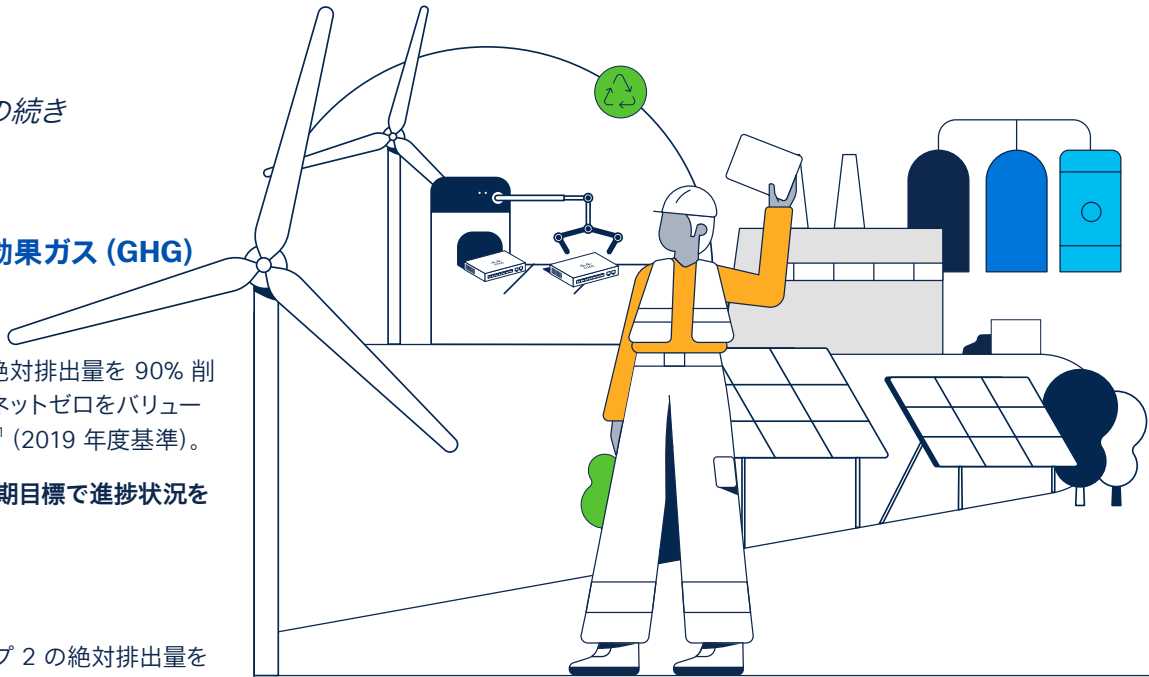
大規模なラックマウント機器システムの電力効率 (施設、基板実装 ASIC、メモリ、その他のチップデバイスで生じる入力電力を測定) を 77% から 87% に改善 (2016 年度基準)。

→ 87% の効率を達成

##### 25 年度までに：

シスコの部品、製造、物流サプライヤの 80% (調達額の割合) に、GHG 絶対排出量の削減目標を公式に設定してもらう。

→ 対象サプライヤの 78%



### 循環型設計、製品、梱包

#### 25 年度までに：

シスコ製品の梱包に使用しているフォーム緩衝材を重量基準で 75% 削減 (2019 年度基準)。

→ 23% 削減

#### 25 年度までに：

製品梱包の梱包効率を 50% 向上 (2019 年度基準)<sup>3</sup>。

→ 累計で 36% 向上

#### 25 年度までに：

シスコの新製品と梱包の 100% に循環型設計の原則を導入<sup>4</sup>。

→ 4% が循環型設計の基準に適合

#### 25 年度までに：

シスコ製品に使用されるプラスチックの 50% (重量基準) をリサイクル素材にする<sup>5</sup>。

→ 23 年度の新目標：未報告

#### 25 年度までに：

シスコの部品および製造サプライヤの 70% (調達額の割合) が、1 つ以上の拠点で廃棄物ゼロ転換を達成する<sup>6</sup>。

→ 少なくとも 1 つの認定施設で 51% (調達額の割合) 達成

1 また残りの排出量は大気中から同量を除去することで中和

2 この目標は、2030 年度までにシスコのサプライチェーン関連のスコープ 3 GHG 絶対排出量を 30% 削減するという以前の目標を拡張したものであり、販売した製品の使用が含まれています。2030 年度の目標に対して報告される基準値や進捗状況には、製造、部品、倉庫サプライヤから購入した製品とサービス、シスコが購入した航空輸送からの輸送および配送 (上流)、販売した製品の使用が含まれます。

3 梱包効率は、容積重量を使用して製品サイズを梱包と比較することで測定しています。容積重量は、容積と標準容積係数を使用して計算した梱包重量です。この方法では、正規化した容積重量の基準値と本年度の差に基づいて梱包効率の指標が算出されます。

4 2022 年度にスコアリングツールをソフトローンチして新製品および梱包の 13% を評価したところ、33% が循環型設計の基準を満たしていました。したがって、2022 年度にリリースされた新製品および梱包全体の 4% が循環型設計の基準を満たしていたこととなります。このスコアリングツールは 2023 年度の初めにすべての事業部門で正式にローンチされたため、2023 年度には評価される新製品および梱包の範囲が広がるものと予想されます。

5 この目標では、サプライヤから調達される汎用部品 (プラスチック製のネジ、ファン、ケーブルなど) に含まれているプラスチックは対象外です。

6 認定プロトコルにおける現在の標準的な定義によると、「廃棄物ゼロ」転換とは、無害な固形廃棄物について、全体の 90% 以上を埋め立て、(廃棄物発電を行わない) 焼却、および環境から転換することとされています。転換方法には削減、再利用、リサイクル、または堆肥化処理が含まれます。

注：年度で記述されている目標の進捗状況は、いずれも会計年度末までの期間において測定したものです。

## 紛争地域をつなぐ： ウクライナでの戦争に対するシスコの対応

ウクライナでの戦争は多くの避難民や難民を生み出しました。ヨーロッパにおける難民危機としては第二次世界大戦以来最大の規模となっています。世界情勢が深刻な局面を迎える中で、シスコはウクライナの人々を継続的に支援し、他社では実現できない重要な接続サービスやセキュリティサービスをウクライナに提供してきました。

### パーパス実現 への取り組み：

「電力を確保すれば、他の重要なニーズも満たせるようになります。たとえば、世界中の人々と連絡を取り合っテメッセージを発信し、ウクライナで起きていることを伝えられます」

#### J.J. Cummings

Cisco Talos 脅威インテリジェンス脅威阻止、チームリーダー

### サイバー空間の最前線で

2022年1月、ウクライナ国境にロシア軍が集結し始めたのに合わせて、シスコの脅威インテリジェンス部門であるTalosも準備を始めました。ウクライナの市民やインフラがサイバー攻撃を受ける可能性があったことから、異常な活動に対する監視を強化しました。

ウクライナが大きなリスクに晒されているのは、当時も今も変わりません。Cisco Talos 脅威インテリジェンス脅威阻止チームのリーダーであるJ.J. Cummingsはこう語ります。「攻撃者の行動をいち早く突き止めて阻止すれば、停電を引き起こす攻撃を防止できます。たとえば病院で電力を確保して、戦場や日常生活で命の危機に陥った人を救えるようになります」。

この戦争の間、Talosのエキスパートはお客様のセキュリティチームと協力して脅威を特定し、阻止してきました。この支援は無償で行っており、シスコのセキュリティ製品やサービスも無料で自動更新しています。「私たちは必要なことをしているのです」とCummingsは言います。



## 難民の支援

ロシアの地上部隊が侵攻を開始すると、シスコのさまざまなチームが速やかに行動を起こして必要な支援を提供しました。シスコは約600万米ドル相当のシスコ機器を非営利パートナー、国連機関、防空施設、ウクライナ政府に寄付して、緊急用の接続とネットワーク機器をセットアップしました。ポーランドのクラクフに Cisco Crisis Response (CCR) チームを設置し、シスコのボランティアと協力して、対応機関のニーズに合わせて独自にカスタマイズした緊急通信キットを構築して提供しました。

また、その他の基本的なニーズを満たす NGO の取り組みも支援しました。これまでに計 375 万米ドルを提供しており、そのうち 325 万米ドルは 2022 年度に支出しています。シスコはさまざまな組織に助成金を提供しました。その 1 つである 国連世界食糧計画 は、シスコなどの組織の支援を受けながら約 8 万トンの食糧と 2 億 3,300 万米ドルを越す現金支援を危機の最初の 6 か月間に提供しています。シスコと Cisco Foundation は、Medibus、European Schoolnet、NESsT などのパートナーと協力して、ヨーロッパのさまざまな地域に移り住んでいるウクライナ難民に医療サービス、教育、雇用機会へのつながりを提供しています。



約  
600 万米ドル  
相当のシスコ機器を寄付



## シスコの従業員による支援

こうした助成金やパートナーシップだけでなく、世界中のシスコの従業員も積極的な支援を展開しています。シスコの ウクライナ人道支援基金 に登録された 25 の非営利団体には、2022 年度末までに 15,600 人を越す従業員から 150 万米ドルを越す寄付が行われています。Cisco Foundation や企業マッチングには総額 430 万米ドル以上の寄付金が集まりました。シスコはロシアとベラルーシにおける事業活動を全面的に停止し、ウクライナの従業員に対して一時的な移住、予期せぬ費用をカバーするための手当、緊急休暇など、さまざまな支援を行いました。また、ウクライナとポーランドの従業員が地域社会に貢献できるよう、10 日間のボランティアデーを追加で提供しました。

# 包括的でインクルーシブなハイブリッド環境の構築

これからの働き方は「ハイブリッドとグローバル」です。2019年から2021年までの間に、主に在宅で仕事をする米国人は3倍に増えました。この働き方の変革は今も続いています。シスコは、コロナ禍が始まる前からハイブリッドワークをいち早く導入してきました。現在、シスコの第一線のマネージャのうち、リモート勤務の部下が1人以上いるマネージャは70%に上っています。

ハイブリッド環境とは、場所を問わずに働ける環境のことです。シスコは、ハイブリッドワークを推進する専門知識を持つ企業として、また、この新しい環境を実現するためのネットワーキング、コラボレーション、セキュリティテクノロジーを何千ものパートナー様やお客様に提供する企業として、ハイブリッドワークの成功事例に基づいたベストプラクティスを定期的に発表しています。重要なのはオフィスで何日過ごすかではありません。インクルーシブでハイブリッドな環境を構築するには、一体感を得ながら能力を発揮できる強力なチームを構築し、お客様にソリューションを提供し、企業文化を強化していくことが重要になります。シスコでは、ハイブリッドワーク全体を次の4つの柱に分けて考えています。

## 1 人材

人材に関するシスコのプラクティスは、シスコの「コンシャスカルチャー」に基づいています。つまり、誰もが認められ、気にかけてもらい、受け入れられていると感じる環境をシスコは意識的に作り出しているのです。成功するハイブリッドモデルでは、柔軟性、心身の充実、インクルージョン、参画が重視されています。これによって場所を問わずに人材を採用し、キャリアアップを支援できるようになります。テレワークでも、キャリアのあらゆる段階で指導と成長の機会を従業員に提供できることが分かりました。

## 2 会社方針とガイドライン

ハイブリッドワークとは、従業員に柔軟性、選択肢、手段を提供することを意味します。シスコは会社方針（ポリシー）とガイドラインを通じて、柔軟なハイブリッド環境を地域の法規制に準拠しながら構築しています。シスコの最新のガイドラインは、出向、転籍、ホームオフィスやインターネットのポリシー、費用の払い戻しに対応しています。ハイブリッドワーク導入のあらゆる段階において、明確でインクルーシブな基準を提供し、アクセスできるようにしています。



### 3 ワークスペース

ハイブリッドワークでは、仕事をする場所よりも仕事の内容や成果が重視されるようになります。シスコでは、あらゆる場所で働く従業員にシームレスな体験を提供しています。**オフィスは義務だから行くのではなく、魅力的な価値があるから行く場所であるべきだとシスコでは考えており**、シスコの新しいコラボレーションセンターも、チームのコラボレーション、つながり、心身の充実を支援し、促進するように設計されています。Penn 1 にあるシスコのフラグシップ コラボレーション センター（サイドバーを参照）は、単なる会議場ではなく、チーム構築、フィットネス、コミュニティ活動などにも利用できます。ここを訪れることで、シスコのお客様や従業員はワークスペースの可能性を目の当たりにできます。

### 4 テクノロジー

デジタルテクノロジーには、企業をより人間味のあるものに変える力があります。コラボレーションからセキュリティ、ネットワークまで、シスコの比類のないテクノロジーソリューションを組み合わせれば、ハイブリッドワークを実現できます。テレワークはとすると疎外感や孤立感を覚えがちですが、シスコのテクノロジーなら、一貫性のあるインクルーシブな体験を場所を問わずすべての人に提供できます。

#### スマートでありながら持続可能なハイブリッドワークを実現

シスコのコラボレーションセンターは、デジタルに対応した効率的なワークスペースです。お客様と従業員はこの快適で安全で創造性あふれる環境で顔を合わせることができます。ニューヨーク市の Penn 1 ビルの再設計では、Power over Ethernet 機能を使用することで何千ポンドもの鋼管や銅線を建物から除去し、何メガワットもの省エネを実現しました。また、シスコのビデオエンドポイントを建物に導入して、占有率、スペース利用率、室内の空気の質、エネルギー使用量、セキュリティのモニタリングと測定を行っています。これらのデータに基づいてスマートブラインド、照明、HVAC の設定を自動調整することで、さらなる経費削減と省エネを達成しています。



# ネットゼロ達成 の先を見据えて

シスコの初代最高サステナビリティ責任者である Mary de Wysocki が、シスコの事業活動における脱炭素化の進捗状況や、お客様、サプライヤ、コミュニティパートナーとともに進めてきた脱炭素化の取り組みについて語ります。



**Q** ネットゼロの目標は、「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」というシスコのパーパスに対してどのような意義を持ちますか？

**A** 未来が訪れるためには健全な地球が必要です。それだけではありません。テクノロジーを活用すればビジネスモデルを刷新してデジタル化と低炭素化を実現し、人々の心身の充実を図り、地域社会に機会をもたらすことができます。その良い例がハイブリッドワークです。場所の制約をなくし、より多くの人を迎え入れ、多様なワークスタイルを取り込むことでインクルージョンを実現しています。環境面でも、ハイブリッドワークにはメリットがあります。特に、センサーや低電圧 Power over Ethernet を使用したスマートビルディング テクノロジーと組み合わせると大きな効果が得られます。こうしたイノベーションを導入すれば、温度、照明、空気の質をモニタリングして制御できます。鋼管や銅線の使用に伴う炭素排出の削減も可能になります。シスコはこうした取り組みを通じてデジタル化、低炭素化、インクルージョンを促進しています。これは企業、人、地域社会、地球にメリットをもたらす包括的なソリューションなのです。

**Q** 今ネットゼロの目標を設定する必要があったのはなぜですか？

**A** 私たちの世界は今、重要な岐路に立っています。ハリケーン、洪水、干ばつ、火災といった気候変動の影響は誰もが目にしているかと思いません。気候の現状を考えると、緩和策だけでは不十分です。適応と再生を検討すべきときが来ています。企業にとっても今は大きな転換点となっています。この新しい時代を生き抜くには、デジタル化だけでなく低炭素化も進める必要があります。シスコは創業以来、お客様のデジタル トランスフォーメーションを推進してきましたが、世界中で事業を展開している強みを活かして低炭素化を促進する機会も手にしています。



**Q** シスコは長年にわたって目標を設定してきました。たとえば排出量は 10 年以上にわたって目標を設定しています。それらの目標は厳密に報告して検証してきました。検証にこれほど力を入れているのはなぜですか？

**A** 私たちが与えた影響を外部機関を通じて検証するのはとても重要です。私たちの行動が意図した成果を生み出していることが保証されるからです。2040 年までにネットゼロにするというシスコの目標は、2040 年までにスコープ 1、2、3 の絶対排出量を 90% 削減するという SBTi の新しいネットゼロ基準を満たしていることが検証されています。また SBTi では中間目標の設定と進捗状況の年次報告も求めており、私たちはそれに従って説明責任を果たしています。

**Q** SBTi の検証を受けた目標を掲げているということは、シスコの事業活動からの排出量だけでなく、バリューチェーン全体からの排出量も削減する必要があります。排出量削減や変革を大規模に推進するために、どのようなアプローチを取っていますか？

**A** デジタル化や低炭素化が進んだ未来を実現するには、脱炭素化の目標を達成できるようにお客様やサプライヤを支援していくことが重要です。私たちの排出量の大半を占めているのは、シスコ製品の使用です。シスコのエンジニアは電力効率の向上や循環型設計の実現において大きな成果を挙げていますが、お客様からは機能強化や帯域幅の増強を求められており、電力需要は増えています。今後はさらに視野を広げて、再生可能エネルギーの導入や送電網のグリーン化を促進する方法を探っていく必要があります。2 番目に大きな排出源はサプライチェーンです。シスコは、2025 年度までにシスコの主要な部品、製造、物流サプライヤの 80% に GHG 排出量の削減目標を公式に設定していただくという目標を掲げており、得られた知見を定期的にサプライヤに提供しています。

**Q** シスコは、初期段階のソリューションに焦点を当てた社会投資戦略を Cisco Foundation を通じて 20 年以上にわたって実践してきました。この分野での経験は、バリューチェーンを超えた排出量削減にどのように活かされていくのでしょうか？

**A** Cisco Foundation や、Cisco Global Problem Solver Challenge などのシスコが開催しているイノベーションコンテストは、革新の必要性が高まっている分野で最先端のイノベーションを促進するのに貢献しています。現在 Cisco Foundation では、初期段階の脱炭素化テクノロジーと、気候変動に対処するための自然を基盤とした解決策に焦点を当てています。私たちはこうした投資を通じて、シスコが何に価値を置いているのか、どのような未来に向かおうとしているのかを他の投資家に伝えているのです。

最近 Cisco Foundation が支援した団体の中で私が特に注目しているのは、Seacology と同団体が推進しているドミニカ共和国マングローブイニシアチブです。これは、同国の重要なマングローブ林を保護している企業を支援する取り組みです。マングローブは、炭素の隔離に役立つだけでなく、高潮や海面上昇から海岸線を守る効果もあることが分かっています。これは、気候変動に対する緩和策であると同時に適応策にもなっている良い事例です。またこのイニシアチブでは、生活基盤が弱い沿岸地域の住民に雇用を提供して、地域社会の人々と強いつながりを築いており、低炭素化を進めるうえでもインクルージョンが重要であることを示しています。



画像提供：Seacology



# 実現

## 世界の接続を安全に実現するテクノロジーを倫理的に構築して提供する

テクノロジー企業は、現代の生活を可能にしているデータの管理者として、お客様やユーザーの信頼を得る必要があります。つまり、自社製品がどのように製造され使用されているかに気を配り、悪影響が生じる可能性があれば対策を講じる必要があるのです。シスコでは、人権が尊重され、インクルージョンが促進され、プライバシーやセキュリティが確保されるようにテクノロジーを設計し、構築することに尽力しています。そうすれば、もっと簡単につながれる世界ですべての人がメリットを得られるからです。



### このセクションの内容

- 16 セキュリティ、プライバシー、信頼性
- 19 人権
- 22 倫理と整合性
- 23 デジタルインクルージョン



## セキュリティ、プライバシー、信頼性

私たちが働き、遊び、学び、つながるときには、ほぼすべての場面でデータが利用されています。データのセキュリティやプライバシーが世界のさまざまな課題に密接に関係しているのも当然のことです。

チームが分散して作業することが増えた今、組織ではユーザー、アプリケーション、モノを安全に接続できる新しい方法が必要になっています。ランサムウェアやソフトウェアの脆弱性を突く攻撃といった脅威は日常茶飯事になりつつあり、サイバースペースは国家間の対立の新たな最前線と化しています。たとえばロシアがウクライナに侵攻して以来、ウクライナ市民を標的にしたサイバー攻撃が急増しています。

こうした状況において、企業のセキュリティ、プライバシー、信頼性に対する規制当局や消費者の期待はかつてないほど高まっています。シスコはこの分野におけるリーダーであり、大規模なグローバル企業として、自社のビジネスを保護するのはもちろん、お客様にも同様の支援を提供する必要があります。シスコはセキュリティ製品やセキュリティソリューションを通じて、企業に必要な保護を提供しています。また、セキュリティ、プライバシー、信頼性の問題に対するシスコ独自の見解を共有して、あらゆる組織がより安全に事業を行えるように支援しています。2022 年度にシスコが発行した『The New Trust Standard』もその一環です。この資料は、世界中の何千ものお客様を保護しデジタル化を実現してきた経験から得た知見をまとめたものです。お客様の期待、テクノロジー、サイバー脅威、国際的なデータガバナンスが変化するにつれて信頼性に必要な要素も進化していくのは間違いありませんが、『The New Trust Standard』では信頼できる最新のデジタル関係を構築するためのフレームワークを紹介しています。

セキュリティ、プライバシー、信頼性の詳細については、シスコの [ESG レポートハブ](#) をご覧ください。



「ビジネスが信頼の上に成り立っていることをシスコは知っています。お客様から信頼され、その信頼に応えられる企業と胸を張って言えるように全力で取り組んでいます」

**Brad Arkin**  
シニアバイスプレジデント兼最高セキュリティ/信頼責任者

## 実現した影響

### 透明性への取り組み

世界中のあらゆるレベルの政府機関がシスコのテクノロジーを使用していますが、それらの機関はテクノロジーの運用方法を規定する政策や規制を打ち出す側でもあります。セキュリティ、プライバシー、信頼性に関連する問題について政策立案者、規制当局、政府機関と連携していくことは、シスコの取り組みにおいて不可欠となっています。たとえば、進行中の調査に関するデータの提供を法執行機関、諜報機関、政府機関から求められることがあります。そのような場合、シスコは一連の厳格なポリシーや手順に従って、データ開示を最小限に抑えながら管理し、シスコのソリューションやサービスへのアクセスが不法に侵害されないようにしています。シスコは透明性レポートを通じて、こうした要求に関連するデータ（国別の要求件数、シスコが対応または拒否した要求件数など）を 6 か月ごとに公開しています。

2021 年 5 月 12 日、ジョー・バイデン米大統領は、ソフトウェア サプライチェーンの透明性を高めることを義務付ける大統領令に署名しました。シスコはこの命令に対応する態勢を整えており、テクノロジー業界におけるソフトウェア部品表 (SBOM) の導入を支援しています。同じ年の暮れには Apache Log4j 2 オープンソースソフトウェアで脆弱性が発見されました。これを受け、シスコのシニアバイスプレジデント兼最高セキュリティ/信頼責任者である Brad Arkin が米上院委員会では証言を行い、シスコの対応のほか、オープンソースソフトウェアをはじめとしたあらゆるソフトウェアが抱えているセキュリティリスクについて語りました。安全なソフトウェア開発プラクティスを普及させるために連邦政府や議会が行える方策も提案しています。

# プライバシー とインクルー ジョンを重視 したソフト ウェア設計



人権の尊重はイノベーションの基本原則です。これは「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」ためにも重要なことです。設計方法論では、プライバシー、セキュリティ、インクルージョンを中心に据える必要があります。人工知能や機械学習の分野ではこれが特に重要になります。製品設計やユーザー体験がどうなるかは、多くの場合、使用するトレーニングデータセットに大きく左右されます。「良いものを使えば良いものができる」という格言どおりの結果になるのです。開発者は、あらゆるユーザーを考慮した堅牢で多様性のあるデータセットを使用するように徹底する必要があります。これを怠ると、結果が不正確になったり、期待外れのユーザー体験になったり、意図しないバイアスが発生したりする可能性があります。

たとえば Webex の仮想背景は、ユーザーの周囲にあるものを隠してプライバシーとセキュリティを確保し、プロフェッショナルな印象を与えたり楽しい雰囲気を出したりできるように設計されています。この機能の初期研究バージョンは当時の最新技術を搭載していましたが、髪の毛の質感やヘアスタイル、照明条件によってはうまく機能しないことがありました。ユーザーの姿の一部分が誤って除去されてしまうこともありました。Webex のユーザーベースを考慮したより広範で多様性のあるトレーニングデータセットが必要であることに気付いたシスコのエンジニアは、機能をリリースする前の設計段階でこの問題に対処しました。データが匿名化されていること、倫理的に収集されていること、ユーザーによって作成されていること、オープンソースであること、明示的な同意を得て提供されていることなどの条件を設けて個人のプライバシーを尊重したデータを適用することで、トレーニングデータをより堅牢なものにしました。これによって多様性に配慮した画像やアルゴリズムが得られ、より適切でインクルーシブなユーザー体験をすべての人に提供できるようになりました。

シスコは Webex チームが得たこの知見に基づいて「責任ある AI フレームワーク」を 2022 年に制定しました。このフレームワークは、透明性、公平性、説明責任、プライバシー、セキュリティ、信頼性という 6 つの原則に基づいています。シスコの責任ある AI ワーキンググループは、これらの原則を遵守する取り組みを継続的に推進しており、責任ある AI インパクト評価を新しいテクノロジーに対して実施し、人権に対するリスクの管理方法に関するガイダンスを提供し、人権、プライバシー、セキュリティの問題に関するインシデントレポートを発行して説明責任を果たしています。

責任ある AI を実現するためのシスコのアプローチは、アイデアの段階から公平性を組み込んで設計し、製品ライフサイクル全体を通じて向上を図るのに役立っています。



## セキュリティとプライバシーをあらゆる場所で提供

シスコは、世界のサイバーセキュリティを向上させるために重要な役割を果たしており、EU クラウド行動規範、グローバル越境プライバシールールシステム、Joint Cyber Defense Collaborative をはじめとする業界標準や国際的枠組みの開発に積極的に取り組んでいます。社内においても、透明性、公平性、説明責任の原則に基づいて、セキュリティとプライバシーを設計段階から組み込む活動を積極的に推進しています。また同時に、新たな脅威や現在の状況への対応強化を図っています。たとえば、オープンソースソフトウェアの保護、シスコの製品やサービスで発見された脆弱性の責任ある開示、信頼性の高いソフトウェアを提供するための政府機関やサードパーティによる取り組みの支援、信頼性のある自由なデータ流通 (DFFT) の実現にシスコは取り組んでいます。さらに、病院、公益事業、交通機関、政府サービスなどの重要インフラを脅威から保護する能力を強化しているところです。こうした重要な機能を保護することで、できるだけ多くの組織が「サイバーセキュリティの貧困線」を上回るようにしています。



## あらゆる組織、すべての人と専門知識を共有

セキュリティとプライバシーはあらゆる組織に不可欠であるとシスコでは考えており、私たちの知識やソリューションを世界中のお客様、業界団体、民間部門 / 公共部門の組織と広く共有するために全力を尽くしています。シスコの従業員については、セキュリティとプライバシーに関する必須トレーニングをすべての従業員に提供するとともに、セキュリティ担当者やプライバシー担当者向けの専門トレーニングや認定も行っています。ユーザーには、自身や家族がインターネットを安全に利用するのに役立つヒントを提供しています。シスコでは、オープンソースソフトウェアのほか、Snort や ClamAV など人気のあるシスコ セキュリティ ソリューションの無料版を提供することによって、セキュリティやプライバシーを簡単に確保できるようにしています。Snort にはリアルタイムのトラフィック分析機能とパケットロギング機能があり、ClamAV を使用すればトロイの木馬、ウイルス、マルウェアなどの脅威を検出できます。また、組織や消費者が抱えているプライバシーの重要な問題について調査を行い、そのレポートをシスコの Trust Center で公開しています。シスコのコラボレーション、調査、リソースの詳細については、ESG レポートハブをご覧ください。



# 人権

世界の大半をつなぐテクノロジーの大手プロバイダーであるシスコは、調達、サプライチェーン、製品の設計と使用など業務をグローバルに展開しており、人権を尊重する企業としてステークホルダーから信頼されています。

シスコのビジネスのグローバルな性質と複雑さ、そしてイノベーションの速さを反映した方法で、私たちはこの責任を果たすように努めています。人権被害からあらゆるグループを守るために全力を尽くしており、弱い立場にあるグループについては特に力を入れて取り組んでいます。たとえば、部品サプライヤーで働く人々が適切に処遇されているか監査したり、あらゆるユーザーを考慮して製品を設計するための管理規定を導入したりしています。

私たちは、ビジネスおよび人権チームが管理しているグローバル人権ポリシーとサプライチェーンのサステナビリティチームが管理しているサプライヤ行動規範を通じて、シスコのビジネスやサプライチェーンにおける人権を管理しています。シスコは、こうした分野における専任エキスパートの業務に情報や助言を提供するエグゼクティブレベルの委員会を設立しました。私たちは今後も、テクノロジー、リスク、企業に対する期待が進化していくのに合わせて、プロセスとポリシーを強化していきます。

## 実現した影響

### シスコの企業全体

シスコは、ビジネスおよび人権のアプローチを成熟させるために継続的に取り組んでいます。たとえば、製品開発における人権の取り組みを拡大しただけでなく、バリューチェーン全体に目を向け、ビジネス関係を通じてシスコが関わる可能性がある人権の影響に対処しています。

私たちは製品の設計方法論に人権を組み込んでいます。たとえば人工知能および機械学習 (AI/ML) テクノロジーは、大量のデータを人間よりも迅速かつ効率的に理解することができますが、人権を侵害したりお客様の信頼を損なったりするような間違いを犯すこともあります。シスコは 2022 年度に責任ある AI フレームワークを制定したのに加えて、責任ある AI/ML 委員会を設置し、業務やソリューション全体における AI の実装や使用のガバナンスを定義および監督しています。こうした体制を導入することで、評価を実施してリスクを特定し、それらのリスクに対処するための支援を製品チームに提供しています。



「シスコは、インターネットを支えるテクノロジーを構築して提供する企業としてお客様、パートナー、ステークホルダーの信頼を得ています。この信頼の中心にあるのが、グローバルに業務を展開する中で人権を尊重するシスコの姿勢なのです」

**Dev Stahlkopf**  
エグゼクティブ バイスプレジデント兼最高法務責任者



シスコは 12 の社会正義アクションの 1 つとして、日常業務のさまざまな側面に人権の視点を組み込むことを掲げています。これには、シスコのコーポレートガバナンス、ポリシー、製品開発に人権を組み込むことが含まれます。また、新しいインクルーシブランゲージポリシーとオープンソースのインクルーシブランゲージツールも社会正義の実現に貢献しています。

シスコの人権に関する取り組みの詳細については、シスコの ESG レポートハブをご覧ください。

# すべての人にとって安全な Webex の構築



プライバシーは単なるコンプライアンスの遵守事項ではなく、基本的人権です。セキュリティ、プライバシー、信頼性は、シスコが提供するビジネス製品の中核をなしています。

教育テクノロジーのプロバイダーでもあるシスコは、未成年者のプライバシー保護に長年取り組んできました。コロナ禍の発生当初にさまざまな学術機関が Webex を導入し、その後もリモート教育の可能性が積極的に開拓されているのは、この信頼できるテクノロジーという基盤があるからなのです。子供たちがインターネットを利用する時間が増えるにつれて、サイバーいじめやハラスメントなどの好ましくない事態が発生するリスクが高まっています。シスコの Webex チームは、教師や生徒固有のニーズに対応するためにツールの機能を更新しました。

次のような新機能が追加されています。

- 会議のホストと参加者の両方が許可した場合にのみ会議を録画できる階層型の録画許可
- ユーザーの背景をぼかしたり、特定の年齢に達するまでプロフィール写真をアップロードできないようにしたりするデフォルトの安全設定およびプライバシー設定
- 教師がクラスの参加者を生徒に限定して、転送された招待状を使用しても生徒以外は参加できないようにする機能
- コンテンツを共有できるユーザーを教師が制御する機能

またアクセシビリティ機能を提供して、すべての人が Webex を簡単に使用できるようにしています。たとえば、聴覚障がいや神経多様性を持つ生徒と教師が Webex を快適に使用できるように評価を実施しています。

教育機関向け Webex チームは、教師や生徒固有のニーズに対応するためにツールの機能を更新しています。



## シスコのサプライチェーン

テクノロジーによってより良い世界をつくるためにまず重要なのは、その設計方法です。シスコは、グローバルでのビジネス、事業、活動を通してすべての人に開かれた未来を実現することを、チャンスでもあり責任でもあると考えています。シスコは、シスコの最終製品を製造する製造パートナー、部品サプライヤ、物流パートナーと世界中で緊密に連携しています。シスコでは、次のような包括的なサプライヤ参画戦略を推進しています。

- ポリシーおよび標準の設定
- それらのポリシーに対するサプライヤの適合性の評価
- サプライヤの改善支援
- 特定のリスクや機会に対処する取り組みの実施
- 同業他者やステークホルダーとの連携によるグローバルな進歩の促進

シスコは、レスポンシブル・ビジネス・アライアンス (RBA) の創設メンバーであり、その最初の行動規範の策定を支援しました。この規範では、労働、安全衛生、環境、倫理、管理システムに関する基準が説明されています。シスコは 2022 年度に 121 のサプライヤの拠点で RBA 監査を実施しました。これらの監査では、17 か国における推定 39 万人の労働者が対象になっています。特定された不適合はすべて、サプライヤの是正措置計画によって対処されており、クローズされるまでシスコによって監視されています。


私たちはサプライチェーンにおける人権リスクの軽減と防止に取り組んでいます。たとえば、採用手数料を支払った労働者に対する是正措置を促進しています。これは債務労働のリスクとみなされており、シスコのポリシーに違反しています。2022 年度は、シスコの監督の下、採用手数料を支払った 2,817 人の労働者に約 170 万米ドルが払い戻されました。また、人権リスクを防止する能力をサプライヤが高められるように支援する取り組みも行っています。2022 年度は、妊娠中の女性や授乳中の母親を労働関連の危険から守るためのトレーニングを 90 以上のサプライヤの拠点で実施しました。また、RBA 行動規範を業務に取り入れるためのトレーニングを 20 以上の新規サプライヤの拠点で実施し、RBA 規範を自社のサプライヤに展開する方法を 60 以上の既存サプライヤに指導しました。

労働者の機会や心身の充実も、サプライチェーンの参画によって促進できます。その一例として、シスコが Social Accountability International と協力して継続的に進めている TenSquared プログラム導入の取り組みがあります。このプログラムでは、解決が求められている職場の課題をマネージャと協力して特定し対処する活動を 100 営業日にわたって労働者に行ってもらいます。2022 年度の取り組みでは、労働者が晒される騒音が軽減され、危険な化学物質に晒される可能性が低減されました。また毎日より安全に働ける方法が特定されました。

製造サプライヤだけでなく、鉱物サプライチェーンでも人権に対する取り組みを行っています。シスコは、鉱山や採掘された鉱物を処理する製錬業者または精製業者から鉱物を直接調達することはありませんが、サプライヤと協力し、シスコの責任ある鉱物調達方針に従ってデューデリジェンスを実施しています。2022 年度は、タンタル、スズ、タングステン、金 (3TG) の対象サプライヤから報告された製錬業者および精製業者のうち、91% が低リスクでした。報告されたコバルト精製業者のうち 62% も低リスクでした。また RCS Global Better Mining プログラムにも貢献しました。このプログラムは、コンゴ民主共和国および周辺国にある人力採掘鉱山や小規模採掘鉱山での労働条件を監視しています。シスコは European Partnership for Responsible Minerals (EPRM) のメンバーであり、EPRM が出資する Sustainable Trade in Artisanal Gold プログラムに追加の支援を提供しています。これによって責任ある調達のためのツールやプラクティスを改善および拡大し、ブルキナファソの採掘労働者にメリットをもたらしています。

この鉱物におけるアプローチで見られるように、シスコでは同業他社やステークホルダーと連携して人権に取り組む戦略を採用しています。こうした協力的な取り組みを通じて、サプライヤが既存の基準を満たし、新たな問題を特定して対処する能力を高められるように支援しています。また、シスコのサプライチェーンにおけるライツホルダーの全体的な関与を促進しています。

サプライチェーンのリスクを特定して軽減し、サプライヤの関与を促進し、影響の拡大を図るシスコの包括的プログラムの詳細については、[ESG レポートハブ](#)をご覧ください。



39 万人  
2022 年度の監査で  
対象になったサプライ  
チェーン労働者の数

# 倫理と整合性

シスコはすべての取引において、最高水準の倫理と整合性を目指しています。

私たちは強い価値観を一貫して維持しており、ビジネスにおいて正しい行動を選択するように努めています。シスコはこれによって世界中のお客様、政府機関、ステークホルダーから信頼を得ています。これらの価値観と従業員に対する私たちの期待は、シスコのビジネスに関する行動規範 (COBC) に組み込まれています。COBC は、あらゆるレベルの従業員が報復を恐れることなく懸念を共有できるシスコ独自の「率直に話す」文化を反映したものとなっており、変化の激しいコンプライアンス環境や業務プラクティスに対応するために毎年更新されています。

COBC の内容に懸念がある従業員や、抱えている疑問が COBC では解決できない従業員は、倫理部、人事部の担当者、法務チームのメンバー、管理職に相談するように勧めています。私たちは、このシスコの倫理的文化をパートナーネットワークに広げていく取り組みを強化しており、パートナーが倫理相談窓口を通じて質問したり、倫理違反の可能性がある事例を報告したりするように奨励しています。倫理部への懸念の報告については、ESG レポートハブをご覧ください。シスコのコンプライアンスおよび倫理組織は、倫理違反のすべての事例と申し立てを、取締役会の監査委員会とコンプライアンス運営委員会（シスコのエグゼクティブリーダーで構成）に定期的に報告しています。2022 年度は、倫理部への問い合わせが増加しました。特に大きく増加したのが、倫理相談窓口への質問です。これはシスコの倫理的文化に対する信頼の表れであると私たちは考えています。



## 実現した影響

### 倫理に関するトレーニングを更新

私たちは、シスコの倫理方針や期待を従業員に理解してもらうための新しい方法を常に模索しています。2022 年度は、腐敗防止および賄賂防止に関する関連法規とその影響、問題発生時の対応方法、違反の報告方法に関するトレーニングを拡充しました。倫理の概念を実践的に学べる「実際にあった事例」の共有も続けています。これは社内内で発生した実際の違反事例を、個人を特定できない形にして紹介するものです。

表 2:

### 倫理部が受けた問い合わせ

2020 年度	2021 年度	2022 年度
1,033 件	1,190 件	1,646 件

図 1:

### 2022 年度の問い合わせの種類

19%

不正行為の申し立て

35%  
質問

46%

利益相反の開示

倫理と整合性の詳細については、シスコの ESG レポートハブ をご覧ください。





以下にその例を示します。

- 南アフリカでは、現在 Cisco Experience, Design, Go-to-Market, Earn (EDGE: 経験、デザイン、市場参入、収益) センターの拡大に取り組んでいます。EDGE センターはビジネス知識を育む場として機能しており、市場参入を加速して、最終的に新たな雇用を地域経済にもたらしています。同センターは中小企業にシスコの最先端の通信テクノロジーとコラボレーション テクノロジーを提供し、トレーニングや支援プログラムによって地域ビジネスの成長を支えています。
- イタリアはプライバシーやサイバー犯罪関連の法律が厳しいにもかかわらず、サイバー攻撃では世界でも上位に入る標的国になっています。シスコは、業界初となるサイバーセキュリティ共同イノベーションセンターをミラノに開設しました。同センターは、研究やイノベーションを促進し、次世代のサイバーセキュリティ専門家を育成し、地域のイノベーションエコシステムを創り出しています。
- スイスのジュラ地方は、電子政府サービスを市民が利用しやすいように改善しています。特に、これまで電子サービスを利用したことがない市民や、自宅から簡単にアクセスできない市民にも利用しやすい環境を構築しています。シスコは地元のリーダーと連携しながら、ポラントリュイの町にインタラクティブキオスクを 2 か所開設して、すべての市民が必要なサービスにアクセスできるように支援しました。
- メキシコでは、専門医療が遠隔地や地方まで行き届いていません。シスコは、民間の医療グループである Médica Sur 社と協力して、メキシコの孤立地域に配備できる「Doctor in a Box」というモバイル医療キットを試験導入しました。デジタル患者サービスをモバイル化したことで、メキシコでも有数の先進的病院がさらに広い地域で医療を提供できるようになりました。

### 設計段階からインクルージョンが組み込まれたシスコ製品

コラボレーション プラットフォームである Webex は、人々がつながるためのさまざまな方法を提供しています。よりインクルーシブな機能をこの製品ポートフォリオで実現するために、シスコは投資と開発を重ねています。たとえば、すべての Webex サービスのリアルタイム分析を提供する Webex Control Hub では、色覚に障がいのあるユーザーが利用しやすいカラーパレットが使用されています。Webex アプリおよび会議プラットフォームの高コントラスト機能は、視力の弱いユーザーの作業性を高めます。会議中のリアルタイム字幕機能と 100 を超す言語への翻訳機能は、聴覚に障がいのある人々を支援し、言語の壁を取り除きます。特に、リモート学習に Webex を利用している場合は、これらの機能を使用することで、参加率や定着率を向上させることができます。

デジタルインクルージョンの詳細については、[シスコの ESG レポートハブ](#)をご覧ください。

## デジタルインクルージョン

インターネットは今や重要なライフラインとなっており、多くの人が仕事、教育、社会交流に利用していますが、世界人口の約半分はまだインターネットにつながっていません。

「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」には、コスト、スキルギャップ、ネットワークインフラの欠如といったインターネットへのアクセスを妨げている要因に対処する必要があります。しかし、アクセスを確保するだけではインクルージョンは実現できません。人々がインターネットにつながったら、ニーズを満たすのに役立つエクスペリエンスを提供することが必要です。私たちは製品ポートフォリオ全体を改善して、より多くの人をつなぐだけでなく、成功に役立つ製品機能を備えたデジタルソリューションを提供して多くの人から信頼されるように取り組んでいます。

## 実現した影響

### デジタル化の価値を引き出す

シスコは 2015 年から政府関係者、産業界、学界と協力して、Country Digital Acceleration (CDA) プログラムを通じて各国のデジタルアジェンダの実現を支援してきました。この 2 年間のコロナ禍によってデジタルテクノロジーが急速に普及しましたが、それと同時に社会全体やさまざまな社会経済グループで情報格差の深刻化が進みました。私たちは CDA を通じて、各国のデジタル化を促進するとともに、すべての人がつながり合うインクルーシブな社会を実現できるように支援しています。現在進行中のものと終了済みのものを含めると、CDA にはこれまでに 44 か国で 1,100 件を超えるプロジェクトがあります。

# コミュニティをつなぐ

現在、ブロードバンド インフラストラクチャは米国のほとんどの地域に導入されていますが、ブロードバンドが開通していても人口の大部分が情報格差に悩んでいる地域があります。米国の歴史的黒人大学 (HBCU) の 82% は、この「ブロードバンド砂漠」と呼ばれる地域に存在しています。

ブロードバンドに接続できないと、教育や雇用の機会が狭まり、医療を受けにくくなり、人とつながるのが難しくなります。シスコは情報格差に対処するために、また「社会正義アクション 8: HBCU を支援する」の一環として、サウスカロライナ州オレンジバーグにあるクラフリン大学のキャンパスでブロードバンドサービスの導入を進めています。この場所にブロードバンドを導入すると非常に大きなメリットが生まれます。サウスカロライナ州はブロードバンドにアクセスできない世帯が最も多い州の 1 つですが、それだけでなく、クラフリン大学のすぐ近くにサウスカロライナ州立大学というもう 1 つの HBCU があるのです。新しい設備を導入することで、両方の大学と周囲約 2 マイルのコミュニティがブロードバンドに接続できるようになります。

このプロジェクトが完了すれば、政府の資金提供を受けられない他の HBCU のモデルになる可能性があります。シスコはクラフリン大学での導入プロジェクトに全面的に資金を提供しています。また Student Freedom Initiative が他の大学にこの取り組みを拡大するための支援を行っています。シスコはこのプロジェクトのほかにも、HBCU やアフリカ系アメリカ人 / 黒人コミュニティを包括的に支援する活動を展開しています。シスコの取り組みの詳細をご覧ください。

## パーパス実現への取り組み:

「HBCU は長年にわたって教育を提供してきただけでなく、コミュニティの柱としても機能してきました。ブロードバンドへの接続を確保することで、今後もそうした役割を担えるように支援しています」

### Scott McGregor

シスコ社会正義アクション 8、リーダー





# インクルーシブ

## 公平性、インクルージョン、 機会への公平なアクセスを 促進するために大胆かつ 慎重に行動する

シスコのパーパス実現は、まず従業員から始まります。シスコのあらゆる活動を可能にしているのは従業員であり、目指している変化は従業員に体现されるからです。世界が進化するにつれてシスコの職場も進化しており、ハイブリッドワークを導入して、インクルージョンや心身の充実を図っています。シスコのパーパスは、世界中のコミュニティにも展開されます。シスコは復元力のあるコミュニティを構築するために全力を尽くしており、衣食住や教育のニーズが満たされ、人々が経済的に自立し、起業家が新しいビジネスを始められる環境を実現するために取り組んでいます。

### このセクションの内容

- 26 シスコの従業員
- 26 インクルージョンとコラボレーション
- 30 従業員の体験
- 31 健康と心身の充実
- 33 従業員のコミュニティへの貢献
- 36 グローバルコミュニティ
- 36 危機対応
- 38 学習スキルとデジタルスキル
- 42 経済力向上



# シスコの従業員 インクルージョンと コラボレーション

インクルージョンは、単に私たちが推し進めていることではなく、私たちの本質そのものです。「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」というパーパスを実現するために、私たちは新しい形ですつながり合ってアイデンティティを尊重し合い、これまでにない役割を仕事の内外で果たしていこうとしています。

そのためには、公平性、コラボレーション、つながりを妨げている障壁を、職場をはじめとするさまざまな場所で取り除いていく必要があります。シスコは 2022 年度も、テクノロジーやデータを活用して最も重要な課題を解決してきました。私たちは今後も、より効



果的な方法で多様な人材を呼び込んで育成し、活躍の場を提供していきます。また社会正義の実現に向けて大胆に行動し、グローバルな従業員リソースグループであるシスコ グローバル インクルーシブ コミュニティを支援し、パートナー、サプライヤ、お客様のエコシステム全体に影響を広げていきます。

## 実現した影響

### 多様性を促進

シスコはこの 8 年間、世界中の従業員の多様性促進に毎年取り組んできました。あらゆる性別、人種、民族を尊重しており、かつてなく高い多様性を実現しています。エグゼクティブ リーダーシップ チーム (ELT) では、多様性を促進し、コミュニティへの積極的な参画を維持するためのアクションプランをすべてのメンバーが作成しています。

私たちは 2022 年度も大きな成果を挙げており、特にアフリカ系アメリカ人 / 黒人 (AA/B)、ラテン系、女性の従業員を積極的に採用しました。「社会正義アクション 2、従業員の多様性を促進する」の一環として、OneTen イニシアチブと強力なアライアンスを結びました。このイニシアチブは、今後 10 年間で 100 万人の AA/B の米国人がスキルアップを図り、雇用と昇進を勝ち取れるように取り組んでいます。私たちはこのイニシアチブを通じて、75 人の AA/B をプロジェクトマネージャ、エンジニア、技術者などとして採用しました。シスコにおける AA/B の雇用率は、人材市場における割合の 2 倍近くに達しており、シスコが AA/B を積極的に採用していることが明確に示されています。

社内外でのキャリアアップ支援体制も引き続き強化しています。5 年前、シスコは The Multiplier Effect (TME) プログラムを開始しました。これは、従業員の間で後援関係を築いて多様性を促進しようという革新的な取り組みです。リーダーは、自分とは異なる優れた従業員を 1 人以上後援してキャリアアップを支援し、この取り組みを同僚にも勧めることを誓います。これまでに 2,446 人が後援者になり、3,761 人が後援を受けています。このプログラムは、後援する側とされる側の双方にメリットをもたらします。データによると、TME の後援者や後援を受けたシスコの従業員は、そうでない従業員よりも昇進する可能性が高くなっています。「社会正義アクション 6、リーダーと従業員をつなぐ」は、TME への参画を促進し、その影響を加速するために設けられました。また、ELT、シニアバイスプレジデント、バイスプレジデント、リーダーが達成すべき全社的な目標も設定しています。この 3 年間で、シスコのバイスプレジデントの 100% がこの誓いを立てています。

従業員の多様性に関する統計を含む、インクルージョンとコラボレーションの詳細については、シスコの [ESG レポートハブ](#)をご覧ください。

## 大胆な信念に裏打ちされた大胆なアクション

シスコは、世界中の不正や不平等を是正する取り組みを長年にわたって精力的に展開してきました。2020年、私たちはパーパス実現の一環として社会正義に取り組んでいくために社会正義の信念とアクションを策定しました。これは3億米ドルをかけた5か年計画であり、重要な社会問題に対処して次世代に向けた持続的な変化をもたらすことを目的としています。この社会正義アクションでは、次のような大きな成果を2022年度までに達成しました。

- アフリカ系アメリカ人 / 黒人の従業員が新入社員から管理職レベルで60%増加（取締役レベルでは94%、バイスプレジデント以上の役職では160%増加）（2020年度基準）
- Corellium社、Work-Bench社、L'ATTITUDE Ventures社、Acrew社など、BIPOCや女性が率いるスタートアップおよびベンチャーファンドにCisco InvestmentsのAspire Fundを通じて投資
- 賃金公正化プログラムを拡大して、毎年実施している基本給、賞与、株式付与の価値分析に加えて、昇進や株式参加に関する分析も実施
- シスコや従業員から集まった数百万ドルの寄付金を非営利団体や社会正義イニシアチブに提供
- 2022年度の対象推奨サプライヤの90%が従業員の多様性に関するレポートを提出

## 12の社会正義アクション:

1. エコシステムに影響を与える
2. 従業員の多様性を促進する
3. 賃金格差の縮小を促進する
4. 取締役会の多様性を高める
5. 差別防止教育を実施する
6. リーダーと従業員をつなぐ
7. サプライヤを参画させる
8. HBCUを支援する
9. 黒人所有企業を支援する
10. パートナーエコシステムの多様性を高める
11. 黒人のイノベータに投資する
12. テクノロジーソリューションに人権を組み込む



# 92%

のシスコの従業員が「コンシャスカルチャーに適應できるスキルの構築」トレーニングを2022年度に修了

# HBCU を大胆 に支援



シスコは大胆なアクションで次世代を見据えた影響をもたらすために取り組んでいます。その良い例の1つが、社会正義アクション8の一環として進めている歴史的黒人大学 (HBCU) のレガシーとサステナビリティを維持するための1億5,000万米ドルの資金提供です。この提供額は、企業からの寄付金としてはHBCUの歴史の中でも最高額です。

2025年までにシスコが提供する全資金のうち、5,000万米ドルはSTEM教育に充てられます。Student Freedom InitiativeのAccess to Education基金に寄付を行った企業はシスコが史上初です。残りの1億米ドルは、4年制HBCUにおけるテクノロジーの近代化に充てられます。この取り組みの詳細と情報格差解消に向けた成果について紹介していますのでご覧ください。シスコは主要なパートナーやサプライヤと協力して、8つのHBCUからなるグループに対する最初の近代化イニシアチブを先日完了しました。優れたテクノロジーが利用できるようになったことで、これらの素晴らしい機関がコンプライアンスをサポートできるようになっただけでなく、レガシーを維持しながらサイバーセキュリティのコンプライアンス基準を満たせるようになりました。シスコはテクノロジーの近代化以外にも、次のような支援をHBCUに提供しています。

- Cisco Networking Academy を約 50 の HBCU で提供、全 107 機関に導入予定
- HBCU と戦略的パートナーシップを結んで HBCU パートナーシップチャレンジ (HBCU の卒業生を雇用する取り組み) に参加
- シスコ HBCU 諮問委員会を設置してベストプラクティスを共有し、コミュニティのステークホルダーの参画を図る



「何世代にもわたる持続的な影響を HBCU とその学生に与えることをシスコは目指しています。私たちは今すぐに行動を起こして、自分にできる貢献活動を一人ひとりがこのコミュニティに提供していく必要があります」

**Maria Martinez**

シスコ エグゼクティブ バイスプレジデント兼  
最高執行責任者



## 触れ合いを通じてアライシップを育む

多様な視点、経験、アイデンティティに触れ合うことは、私たちがインクルージョンを革新し、拡大し、促進していくための共通の手法となっています。たとえばシスコの触れ合いイニシアチブは、リーダーとチームが話題を共有し、臆すことなく対話を行って、互いに協力しながらビジネスのあらゆる側面にインクルーシブな行動を組み込んでいくという取り組みです。この取り組みの中心となっているのが、さまざまな多様性を持つリーダーと従業員が1対1で対話する触れ合いミーティングです。2022年度はコーチングプログラムを拡張しました。対話から得られた洞察に基づいて理解を深め、インクルーシブなリーダーシップを推進していくことを目的としたプログラムで、2019年度に開始して以来、バイスプレジデントレベル以上の300名を超すリーダーが参加しています。

シスコ グローバル インクルーシブ コミュニティとよりシームレスな関係を構築したことも、触れ合いの機会を持つうえで重要な役割を果たしました。2022年度は、700回以上の触れ合いミーティングがこのコミュニティの協力の下で開かれました。シスコのグローバル インクルーシブ コミュニティは、社会正義の推進においても重要な役割を果たしています。シスコでは毎年1回、社会正義週間を実施していましたが、2022年度はこのコミュニティの協力によって通年の社会正義運動に拡大されました。コミュニティごとに、ゲスト講演者を招いてパネルディスカッションを行い、個人の体験を紹介するイベントを毎月開催して、認知度向上と帰属意識の醸成に努めています。

27  
のシスコ グローバル  
インクルーシブ コミュニティ  
300  
支部  
70 以上  
の国



## エコシステム全体に影響を拡大

「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」というパーパスには、パートナーとサプライヤのエコシステム全体に多様性、公平性、インクルージョンを拡大していくことも含まれます。シスコでは、50人を超す臨時社員をシスコに派遣している推奨サプライヤに、多様性を追跡し、集計して報告するように求めています。シスコからも、多様性を促進するためのイノベーションや有用なソリューションを提供しています。2022年度は、シスコで大きな成果を挙げている「コンシヤスカルチャーに適應できるスキルの構築」トレーニングを主要なサプライヤに広げていく方法を検討し始めました。サプライヤ多様性エグゼクティブ スポンサーシップ プログラムへの投資も継続しています。このプログラムでは、多様性のあるサプライヤとシスコのエグゼクティブがペアになって定期的にコーチングやフィードバックを行ったり、カリキュラムセッションを実施したりして、シスコのサプライヤ環境や優先事項についてサプライヤが詳しく知れるようにしています。現在までに、米国、英国、インドの56人のエグゼクティブがこのプログラムを修了しています。

### シスコの臨時社員：

製造業以外のサプライヤの従業員は臨時社員とも呼ばれており、シスコのワークフォースの一部となっています。シスコはサプライヤコミュニティのオーナーの多様性だけでなく、シスコを直接サポートしている推奨サプライヤの従業員の多様性も追跡しています。2022年度は、53の推奨サプライヤから多様性の指標が報告されました。このデータによると、女性、マイノリティ、退役軍人の全体的な割合が前年比で3%増加しています。

# 従業員の体験

シスコのパーパスは従業員の仕事を有意義なものにしています。またキャリア開発に積極的に投資することで、従業員が定着しやすい成長できる職場を実現しています。

人々が働く方法、場所、時間はこの3年間で大きく変化しました。シスコでは、多様なワークスタイルに対応できるようにツールやプロセスを適応させる取り組みを集中的に進めています。たとえば、効果的に仕事を進めるために必要なコラボレーションツールを提供し、ハイブリッドワークへの取り組み方をリーダーに説明し、安心してコラボレーションできる安全な場所としてオフィスを再構築しています。従業員の声に耳を傾けることは、シスコのあらゆる意思決定において引き続き重要な役割を果たしています。私たちは Real Deal 調査を四半期ごとに実施して従業員に対する積極的な働きかけを行っており、効果的だった施策やそうでなかった取り組みについて従業員の意見を聞き、全員が活躍しているように改善を進めています。



「シスコは、キャリア開発と個人能力開発の両方に積極的に投資しています。従業員が自分の強みを活かして能力を最大限に発揮すれば、卓越した成果を挙げてパーパスを促進できることを私たちは知っているのです」

**Kelly Jones**  
最高人材活用責任者

従業員の体験の詳細については、シスコの ESG レポートハブをご覧ください。

## 実現した影響

### My Onboarding Journey を拡充

どの従業員にとっても、シスコで働く最初の数か月間は、シスコでの以降の過ごし方を決定づける大切な期間です。私たちは 2022 年度に My Onboarding Journey (MOJ) というフルタイムの新規採用者を対象にした新しいプログラムを開始しました。このプログラムでは、従業員がさまざまなつながりを築く方法を最初の 1 週間および 30、60、90 日後に紹介しています。福利厚生やリソースの利用方法だけでなく、シスコ グローバル インクルーシブ コミュニティに参加する方法や、スキルを構築して地域社会に還元する方法も紹介しています。私たちは最近このプログラムを強化して、より親密なブレイクアウトセッションを提供しました。またコンテンツを各地域の言語に翻訳し、MOJ 修了生向けのイベントも企画しました。プログラムを立ち上げたのがコロナ禍のさなかであったことから、現在、対面式のプログラム要素の拡充を進めています。これによって新規採用者がつながりをさらに深め、部門を超えたシスコのコラボレーションカルチャーを体験できるようになります。

11,187 人  
の新規採用者が  
2022 年度に My  
Onboarding Journey  
に参加

### キャリアの可能性を照らす

従業員からのフィードバックを分析したところ、キャリア開発に役立つオンラインリソースを求める声が強く、学習や能力開発に集中できる時間を従業員が必要としていることがわかりました。こうした洞察に基づいて、私たちは 2022 年度に Cisco Illuminate を開始しました。さまざまな学習体験を四半期単位で継続的に提供するプログラムであり、自信を持ってキャリアパスを進んでいくために必要な人材、情報、スキルを従業員に紹介します。四半期ごとに異なるトピック(学習、リーダーシップ、キャリア、チーム)を扱います。たとえばリーダーシップ能力の開発では、社内外の講演者を招いて、リーダーがチームを率いていくのに役立つ事例、ベストプラクティス、簡単なアクションを紹介しました。Cisco Illuminate は学習や能力開発を促進することを目的としたプログラムですが、これ以外にもさまざまなリーダーシップおよび専門能力開発プログラムを引き続き提供しています。詳細については [ESG レポートハブ](#) をご覧ください。

## 健康と心身の充実

シスコでは、安全で健康的な勤務環境を従業員が構築できるように支援しています。ハイブリッドワークが普及した未来を実現するには、あらゆる場所にいる従業員が自分自身や家族などを十分にケアできるように支援していく必要があります。

私たちが健康と心身の充実を重視しているのは、シスコの「コンシャスカルチャー」の表れです。私たちは福利厚生や心身の充実に関するプログラムを従業員に提供して、誰もが経験する心身の調子の波や、コロナ禍や社会危機など心身の充実に影響を与える可能性がある突発的な出来事を乗り越えていけるように支援しています。

働く場所や働き方を柔軟に選択できることは、ワークライフバランスを促進するうえで欠かせない条件になりつつあります。シスコはハイブリッドワークモデルを採用することで、望ましいワークスタイル、チームの活動形態、個人の心身の充実について考えを深め、すべての人にとってインクルーシブでポジティブな環境を作り出しています。ちなみに、家族のケアをしているというシスコの従業員の数約 60% に上っています。この柔軟性が大きな成果をもたらしていることが四半期ごとの従業員調査で示されています。

## 実現した影響

### 健康関連サービスをハイブリッドアプローチで提供

コロナ禍が進むにつれて、私たちは引き続き対面で提供するサービスとオンライン形式に移行するサービスを慎重に選り分けました。今後も新型コロナと共存する方向性が見えてきたことから、ハイブリッドアプローチを取り入れて、人々が自分に合った方法でサービスを利用できるようにしています。たとえばシスコの LifeConnections ヘルスセンターは営業を続けており、プライマリケア、理学療法、鍼治療、カイロプラクティック、眼科治療、歯科治療（カリフォルニア州サンノゼ）、行動治療を提供しています。従業員や請負業者は遠隔医療を通じてケアを受けることもできます。サンノゼと英国のベッドフォントレイクスにある子供センターは、厳格な安全対策を施して営業を続けています。2022 年はサマーキャンプを再開して子供たちを迎えました。また、今年はグローバル フィットネスセンターも再開しました。これらのセンターではグループエクササイズや栄養教育クラスなどに参加できます。サンノゼ、ノースカロライナ州リサーチ トライアングル パーク、バンガロール（インド）のテクノロジーチームはフィットネススタジオにテレプレゼンス機能や Webex 機能を導入して、高度なハイブリッド体験を提供しています。

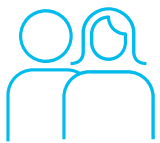


健康と心身の充実の詳細については、シスコの ESG レポートハブをご覧ください。



# すべての従業員に メリットをもたらす 福利厚生

シスコの福利厚生戦略では、すべての従業員が能力を最大限に発揮できるように、インクルーシブで適応力のある有意義なサービスや体験を提供しています。画一的なアプローチではこの戦略は実現できません。私たちは公平なサービスを世界中で提供し、公平さと公正さを促進する体験を提供できるように努めています。これには次のようなものがあります。



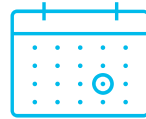
## お子さんとの絆を深める ジェンダーニュートラル な休暇

子供を家族に迎えるための休暇です。子供の保護者であれば、性別や出産の役割に関係なく取得できます。



## お孫さんが生まれた従業員の ための有給休暇

この一大イベントをお祝いすることがいかに大切か、私たちは知っています。最長 3 日間の休暇が付与されます。



## 緊急休暇

家族の緊急事態に対処するための有給休暇です。この「家族」は、自分の世話が必要な人と広く解釈されます。



## 多様なバックグラウンドを持つセラピスト

性別、民族、宗教など、同じアイデンティティを持つセラピストを選べます。



## ジェンダーアイデンティティに関する専門サポート

トランスジェンダー、インターセックス、ノンバイナリの従業員は、一人ひとりのニーズを考慮しながら医療システムを案内する専門知識を備えた専任医師の支援を受けられます。



## 医療交通費の払い戻し

米国の従業員が医療を受けるために支払った交通費をシスコが負担します。この医療にはジェンダー アファメーション ケアや中絶サービスが含まれます。



## 家族をケアしている従業員向けのリソース

すべての従業員が利用できる RethinkCare では、自分の子供などのケアをしている従業員を対象に、社会面、感情面、発達面、行動面の課題を子供たちが乗り越えるのに役立つガイダンスやリソースを提供しています。一部の国で利用できる Wellthy では、特別な支援を提供する専任の介護コーディネータを紹介しています。



## 従業員をサポートするためのコミュニティ

8 つのシスコ [グローバル インクルーシブ コミュニティ](#) では健康と心身の充実をサポートしており、従業員はさまざまな問題について同僚にサポートを求めることができます。

シスコの従業員  
が利用できる福利  
厚生の詳細につ  
いては、[ESG レポート  
トハブ](#)を  
ご覧ください。

# 従業員のコミュニティへの貢献

シスコではパーパス実現の一環として、地域社会やグローバルコミュニティに貢献するように従業員に奨励しています。

2022 年度も 3 年連続で 80% 以上の従業員がコミュニティへの貢献活動に参加しました。強い関心のある理念への賛同、環境保全のための行動、ハイブリッドボランティア活動（オンラインおよび対面）、寄付、デジタル社会貢献体験、調査の共有、人 / 社会 / 地球にプラスの影響を与えるプログラムへの参加など、シスコでは従業員の行動を測定して評価しています。世界的なコロナ禍に見舞われているにもかかわらず、シスコの従業員の 5 人に 4 人がこの 3 年間 95 か国で貢献活動を展開したことは、小さな親切を積み重ねて大きな影響をもたらしていくパーパス中心の文化が根付いている証となっています。

シスコでは、行動科学および経済学の原則やデータに基づく洞察を活用して戦略を推進しており、すべての従業員があらゆる場所で貢献できるようにしています。たとえばすべての新入社員にクレジットを付与して自分の選んだ非営利団体に寄付できるようにしたり、デジタルスペース、会議、ビジネスイベントに簡単な社会貢献活動を組み込んだりして活動を促進しています。また Webex を活用してエンゲ

従業員のコミュニティへの貢献の詳細については、シスコの [ESG レポートハブ](#) をご覧ください。

ジメントを高め、ポジティブな習慣を作り出しています。従業員はチャットボットとやり取りすることで、寄付や誓約を直接行えます。シスコやチームの参加状況は、誰でも使用できるデジタルウィジェットでいつでもどこでも簡単に追跡できます。

コミュニティへの貢献は、シスコのコンシャスカルチャーにおいて欠かすことのできない要素となっています。シスコの ELT ではコミュニティへの貢献を事業運営に統合しており、支援が必要なコミュニティをサポートする取り組みを促進し、コミュニティへの貢献がビジネスに不可欠であるという期待を設定しています。さらに、シスコのグローバル インクルーシブ コミュニティの多くは独自の貢献目標を掲げて活動を展開しています。シスコでは貢献の方法の変革を長年にわたって進めており、その独自の経験を活かして [Boston College Center for Corporate Citizenship](#) などのフォーラムを通じて戦略や成果を共有しています。これによって貢献活動を促進し、プラスの影響を何倍にも広げることができます。

## コミュニティへの貢献をリード

2020 年度以降、次のことを達成しました。



## 実現した影響

### すべての人の平等な権利を支える活動に従業員が貢献

「社会正義アクション 1、エコシステムに影響を与える」では、アフリカ系アメリカ人 / 黒人の正義と平等な権利を追求するために、非営利団体や政策の変化を支援しています。このアクションの一環として、コミュニティ貢献チームはシスコのコネクテッドブラック プロフェッショナル (CBP) インクルーシブコミュニティと協力して Power to Empower キャンペーンを実施しました。このキャンペーンでは、人種的平等や社会正義を推進している非営利団体の中で特に有意義だと思う団体を CBP のメンバーや他の従業員に推薦してもらいました。キャンペーンを通じて、100 を超す非営利団体がシスコのマッチングギフトポータルに新たに追加され、従業員がボランティア時間や寄付をシスコを通じてマッチングできるようになりました。

さらに、シスコの Black Equity Grant (BEG) プログラムでは、社会正義や人種的平等を推進している非営利の黒人支援団体や黒人が率いる非営利団体に、毎年 50 万米ドルの助成金を出しています。コミュニティ貢献チームはこの BEG プログラムを通じて CBP と協力しながら組織を選定し、素晴らしい活動を展開している 5 つの組織に計 75,000 米ドルの助成金を付与しました。

### 目的に向かって歩む旅

スペイン北部を 500 マイル以上にわたって横断しているサンティアゴ巡礼路には、毎年何万人もの巡礼者が訪れます。2022 年は、21 か国から 425 人のシスコの従業員、友人、家族が集まってトレーニングや準備を行い、この巡礼路を歩いて、がんと闘っている世界中の慈善団体のために資金を集めました。多くの従業員は Time2Give を利用してこのイベントに参加しました。これはボランティア活動を行うために各従業員に与えられている



10 日間の休暇です。従業員は総額 10 万ユーロ以上を集め、ヨーロッパ 9 か国のがん慈善団体に提供しました。この体験は、イベントを終えても続くつながりを従業員同士が築き、旅を通じて人々や環境にプラスの影響を与える絶好の機会となりました。このイベントの [ビデオ](#) をご覧ください。

### サステナビリティの取り組みに従業員が参画

シスコでは、環境保全に貢献することを従業員に奨励しており、さまざまなプログラムやプラットフォームを提供して、従業員がリソースにアクセスし、インスピレーションを得て、アイデアを共有できるようにしています (詳細については [ESG レポートハブ](#) をご覧ください)。2022 年度は Sustainability Central を立ち上げました。この社内サイトでは、サステナビリティに対するシスコの取り組み、営業チーム向けのリソース、シスコ全体でのサステナビリティに関するニュースやハイライトを提供しています。また、サステナビリティ アンバサダーという新しいプログラムも開始しました。このプログラムでは、シスコのグローバルなサステナビリティ戦略やポートフォリオを社内やお客様、パートナー、その他の外部ステークホルダーに伝える役目を担う従業員を養成しています。初回のプログラムでは、60 人を超す従業員がシスコ サステナビリティ アンバサダーに任命されました。

24 の Green Team Network (サステナビリティの影響を高めることを目的としたグローバル インクルーシブ コミュニティ) にも従業員が引き続き参加しています。またアースデイを盛り上げるためにシスコが毎年実施している Earth Aware にも従業員が参加しました。このキャンペーンを締めくくる SustainX も毎年開催されています。また、対面式の [IT リサイクルの日](#) をコロナ禍が始まって以来初めて開催することができました。今回で 25 周年を迎えたこのイベントでは、従業員が使用済みの電子機器をリサイクルに持ち込むことができます。今年度は世界中の 100 の拠点から 128 トンの機器を回収しました。

シスコの循環型経済への変革に対する従業員の認識を高め、貢献活動を促進するために、循環型経済に関するニュースレターを四半期ごとに発行しています (現在はサステナビリティに関するニュースレターとして発行しています)。また循環型経済 Webex スペースを運営し、シスコのさまざまな主要グループにトレーニングを提供しています。2022 年度はニュースレターの読者が 20% 増加しました。また設計コミュニティの 5,500 人を超す従業員が、循環型設計の原則を各自の役割に組み込むためのトレーニングを受けました。



# 技術スキルを活かした貢献活動



行動や寄付以外にも、有用なスキルを非営利パートナーに提供できるシスコの従業員がたくさんいます。シスコでは Tech4Good という専用のマッチングサービスを提供して、従業員が自分のスキルを活かしてプラスの影響を与えられるようにしています。たとえばシスコのエンジニアは、米国のホームレスコミュニティを支援している LifeMoves、Destination: Home、Covenant House Alaska、Westhab の 4 つの組織に専門知識を提供しています。この貢献活動によって、インターネットにアクセスしやすい環境をこれらの非営利団体や、団体が支援しているホームレスの方々、以前ホームレスだった方々に提供しています。これは住居や就職先を見つけるための重要な手段になっています。

システムエンジニアは、一時保護施設を直接訪問したりスタッフとオンライン会議を行ったりして、各拠点に合った Cisco Meraki ネットワークを設計しています。たとえば LifeMoves には、駐車場内の一時保護施設からコンクリート造の建物までさまざまな拠点があり、通信ニーズもそれぞれ異なります。シスコでは各拠点の要件を把握し、部品表について助言を行ったうえで Meraki ネットワーク機器を寄付しています。

Paul Simpson 氏は、シスコが支援している LifeMoves の最高財務責任者です。「ホームレスは世界的な問題です」と同氏は言います。「テクノロジーだけで解決することはできませんが、解決を妨げている要因を排除するうえでテクノロジーコミュニティの支援は大きな力になります」。



## パーパス実現への取り組み:

「これは素晴らしい機会です。企業だけでなく、人々を支援している方々の生活にも変化をもたらすことができます。自分が与えた影響を街中で毎日目にすることができるのです」

### Tim Curry

シスコプログラムマネージャ、  
ネットワーク エクスペリエンス戦略および運用

# グローバル コミュニティ

## 危機対応

シスコは、弱い立場にある人々が重要なニーズを満たし、紛争や自然災害などの危機に対する復元力を確保できるように長年にわたって支援してきました。

シスコはテクノロジー企業として、独自の立場から支援を提供しています。自然災害や人道危機の発生時には、食糧、水、住居、医療に加えて、接続の確保も重要な援助になります。接続できる環境があれば、さまざまな機関が連携しながら対応に当たれるようになり、人々が大切な人と連絡を取ったり、重要な情報やサービスにアクセスしたりできるようになります。

Cisco Crisis Response (CCR) チームは、シスコの従業員、テクノロジー、財源を活用して、災害に対する準備と対応に精力的に取り組んでいる非営利パートナーや緊急対応パートナーを支援し、長期間にわたる復旧を促進し、コミュニティの復元力を確保しています。11人体制のこのチームは、テクニカルエンジニア、運用および物流コーディネータ、助成金ポートフォリオマネージャで構成されています。また 400 人を超すシスコの従業員がボランティアとして時間と専門知識を提供しています。この 1 年間で、私たちは多くの戦略的パートナーシップを深め、チームを拡大して、より多くの場所でより多くの人々を支援しました。

## 実現した影響

### ホームレスの危機に対処

Destination: Home は、カリフォルニア州サンタクララ郡でホームレス問題に取り組んでいる非営利団体で、住宅、予防プログラム、接続をホームレスの方々に提供しています。この団体に 5 年間で 5,000 万米ドルを提供するシスコのパートナーシップは、今年で最終年を迎えました。2018 年に始まったこのパートナーシップを通じて分かったのは、ホームレスのうち重度の精神疾患を患っていたり日常的に薬物を乱用したりしているのは、一般的な固定観念とは異なり、38% に過ぎないということです。それよりも、家を買う余裕がないことがホームレスになる大きな原因となっています。私たちはこの角度からホームレスの問題に取り組んでおり、民間資本を提供し、公的資金と組み合わせることで、開発者が土地を取得して手頃な価格の新しい住宅をより迅速に建設できるように支援しています。インターネットアクセスは、人々がコミュニティに積極的に参加したり、重要なサービスにアクセスしたりするのに役立つため、新しい住宅の開発に Wi-Fi 接続を組み込むことも重要な仕事となっています。

シスコの支援によって Destination: Home が次の成果を達成

手頃な価格の住宅を開発する  
30 件のプロジェクトに資金を  
提供し、2,600 戸超の  
新築計画を支援

12,300 人以上がホームレスに  
なるのを防止



### 世界中の難民を支援

現在、世界には 2,700 万人以上の難民がいます。家を追われた人々は、重要なリソースへの接続や、遠方にいる大切な人とのコミュニケーションなど、情報を入手するための一般的なアクセス手段も失っていることがよくあります。今日の高度にネットワーク化された世界では、接続はライフラインです。CCR は、2022 年度に世界中で広がる危機に対応し、安全なインターネット接続をさまざまな場所で確立しました。たとえば米国とメキシコの国境にあるシェルターやコミュニティセンター、コロンビアのベネズエラ移民支援拠点、アフガン難民を収容する米軍基地、モルドバ、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ルーマニアのウクライナ難民を支援する難民宿泊センターなどです。2015 年以来、CCR は非営利団体や国連のパートナーと協力して、世界 15 か国 (4 大陸) の難民に安全な接続を無料で提供してきました。

危機対応の詳細については、シスコの  
ESG レポートハブをご覧ください。

# NetHope の 影響力の拡大



シスコと NetHope は、20 年以上にわたり、テクノロジーを通じて人道的課題に取り組んできました。NetHope は 65 を超す世界の主要な非営利団体が参加しているコンソーシアムで、シスコが Save the Children と協力して設立を支援しました。それ以来、設備、従業員のボランティア活動、専門知識を提供して NetHope をサポートしてきました。

最近、シスコはこのパートナーシップに 1,500 万米ドルの助成金を提供して、Digital Breakthrough Initiative を立ち上げました。この資金は、NetHope とその NGO メンバーが緊急事態への準備と対応を改善し、気候変動に対する復元力を確保し、非営利メンバーのサイバーセキュリティおよびデジタル保護に関するプラクティスや能力を強化するのに役立てられます。助成金のうち約 600 万米ドルは、NetHope の緊急事態に対する準備および対応プログラムに充てられます。このプログラムでは、次のような活動を行っています。

- 災害レジリエンスカリキュラムとトレーニングを世界中の NetHope メンバーおよび対応機関に拡大
- 認定された迅速対応チームを地域レベルと世界レベルの両方で拡大、維持
- Rapid Response Fund に投資して、NetHope とそのメンバーが対応や活動をより迅速に展開できるようにする
- 災害が多発する国や地域に設備を事前配備して災害発生後の電力や通信の復旧時間を短縮

またこの助成金は、NetHope が危機情報とデジタル イノベーション プログラムを拡大し、テクノロジーとデータの力を活用して調整力を向上させ、緊急時により効果的な対応を提供するのにも役立てられます。

NetHope の CEO である Lance Pierce 氏は次のように述べています。「これらの資金は、NetHope が地域に合わせた調整や復元力について新たな方向から緊急対応を行うのに役立ちます。救援、開発、保護を行う団体の間で気候に焦点を当てたパートナーシップやアクションの新たな波が生まれていくでしょう」。



シスコは 2001 年の NetHope の設立を支援し、その人道支援組織からなるコンソーシアムをサポートし続けています。今年も 1,500 万米ドルの助成金を提供して、人道的開発や国際的開発に関わる団体の能力を NetHope が構築するのを支援しました。



# 学習スキルと デジタルスキル

競争の激化、ネットワーク化、テクノロジーの活用が進む今日の世界では、デジタル情報を利用した教育が不可欠となっています。

官民パートナーシップを通じて協力しながらあらゆる場所にいる人々に質の高い教育を提供することは、シスコがパーパスを実現するための重要な手段となっています。ハイブリッド学習、遠隔学習、自主学習を取り入れた新しい形の学校教育、キャリア開発、スキル開発があらゆる年齢の学習者の間で注目を集めています。

Cisco Networking Academy は、職務に役立つ IT スキルを提供する世界で最も長い歴史を持つ教育プログラムの 1 つです。学習科学やシスコの業界における専門知識に裏打ちされた高品質のカリキュラムを提供しており、最も需要の高いさまざまなデジタルスキルを習得できます。私たちは、大規模学習やパーソナライズされた学習環境をより多くの人に提供できるように、学習テクノロジーの革新、投資、進化に継続的に取り組んでいます。このグローバルプログラムは、政府、学術機関、非営利団体などからなる比類のないパートナーシップ エコシステムを通じて運営されており、このエコシステムが学習者にコースを直接提供しています。

2022 年 10 月、シスコは、Cisco Networking Academy Program を通じて今後 10 年間で 2,500 万人にデジタルスキルやサイバーセキュリティスキルのトレーニングを提供するという新しい目標を発表しました。[Networking Academy](#) は 2022 年に 25 周年を迎えました。

シスコでは、女性、人種的マイノリティ、障がい者、世界中の農村部の住民など、テクノロジー分野においてこれまで十分にサービスを受けられなかった人々や過小評価されてきた人々に教育やキャリアへのつながりを提供して、あらゆる業務分野でレジリエンスを構築しています。また、サイバーセキュリティの人材不足が世界中で深刻化していることから、サイバーセキュリティ教育にも力を入れています。シスコは、2022 年にワシントン DC で開催されたホワイトハウス全米サイバー労働力および教育サミットで、今後 3 年間でさらに 20 万人の米国の学生にネットワーキングスキルとサイバーセキュリティスキルのトレーニングを提供するというコミットメントを発表しました。

学習スキルとデジタルスキルの詳細については、[シスコの ESG レポートハブ](#)をご覧ください。



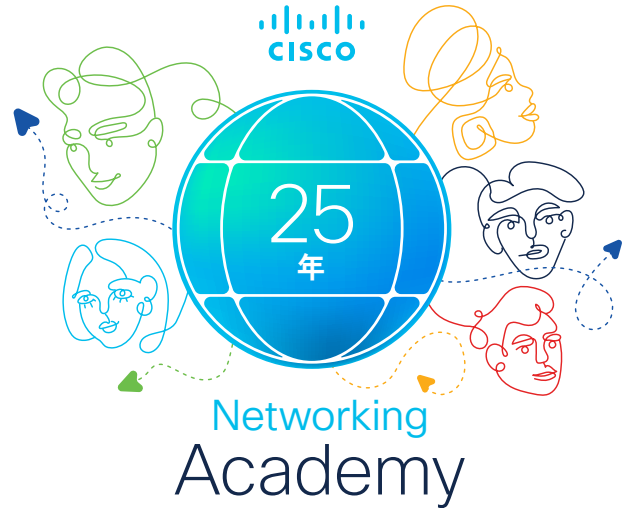
## 就業機会をすべての人に

十分なサービスを受けていない人々や過小評価されている人々に焦点を当てることは、公平でインクルーシブなグローバル戦力を構築するのに役立っています。2022 年度は、Talent Bridge プログラムの候補者の多様化に取り組み、難民グループや過小評価されているコミュニティとのつながりを構築しました。たとえば、シスコがこれまで NGO と築いてきた関係を活用して、このプログラムに難民を紹介しています。二要素認証をマッチングエンジンに導入して、難民の候補者が簡単かつ安全にアクセスできるようにしました。また、さまざまなエキスパート（UNHCR、Tent Partnership for Refugees、Fragomen 社、EY Global Consulting Services 社）と協力して、難民を雇用するメリットをシスコのチャンネルパートナーに説明しました。

## 実現した影響

### Cisco Networking Academy を通じてより多くの人に教育を提供

教育業界は全般的に課題が多く、混乱も続いていますが、シスコのデジタルスキルプログラムは着実に需要が増加し続けています。私たちは引き続き Cisco Networking Academy Program を拡大しており、今日の新しい学習方法やつながり方を取り入れてより多くの人に教育を提供しています。シスコは 2021 年度に Skills for All というモバイルファーストの無料学習プラットフォームを立ち上げて、教育への公平なアクセスをさらに進化させました。2022 年度は、業界で認められた新しいサイバーセキュリティ認定に合わせて Skills for All のサイバーセキュリティ学習パスにさらなる投資を行いました。これによって、サイバーセキュリティ技術者やジュニア サイバーセキュリティ アナリストといったサイバーセキュリティ分野のエントリーレベルの職務に就く能力があることを受講者が示せるようになりました。Networking Academy の Talent Bridge プログラムでは雇用機会を提供して受講者をさらに支援しています。受講者は提供されているキャリアポータル、キャリアリソース、修了生ネットワーク、Talent Bridge マッチングエンジンを利用して 1,000 を超す雇用パートナーとつながることができます。



**1,750 万人**  
全世界の累計受講者数

**26%**  
開講以来の女性受講者の割合

**95%**  
就職または教育の機会を得るのに Networking Academy が役立ったと回答した受講者の割合<sup>1</sup>

**340 万人**  
新しい仕事に就くのに Networking Academy が役立ったと回答した受講者の数<sup>2</sup>

**2019 年以来**

**153,000 人**  
障がいがあると回答した受講者の数<sup>3</sup>

**2022 年度**

**11,800**  
の学術機関

**190**  
の国

**29,300 人**  
のインストラクター

**21%**  
女性インストラクターの割合

**92%**  
Networking Academy のおかげで講師としての能力を高められたと回答したインストラクターの割合<sup>4</sup>

1 2005 年度（修了時調査を開始した年）から 2022 年度までにシスコ認定コースの参加者を対象にして実施した受講者成果調査に基づく。

2 2005 年度（修了時調査を開始した年）から 2022 年度までにシスコ認定コースまたは IT 基本コースの参加者を対象にして実施した受講者成果調査に基づく。

3 シスコがこのデータの収集を開始した 2019 年 7 月以降。回答は自己申告で任意。

4 現役の講師を対象にして 2022 年度に実施したインストラクター調査に基づく。



## 女子とデジタルスキルをつなぐ

適切なロールモデルとの出会いがキャリアの選択を大きく左右することがあります。Cisco Networking Academy と連携して実施している Women Rock-IT プログラムでは、IT、起業などのさまざまなテクノロジー分野で活躍している女性のロールモデルを少女たちに紹介しています。2022 年度のメインイベントでは e スポーツとゲームをテーマに取り上げ、ゲーマーが自分のスキルをテクノロジー分野のキャリアに結びつける方法を探りました。このイベントは国際 ICT ガールズデーに合わせて世界中にオンラインで放映され、シスコの女性リーダーのほか、e スポーツプレイヤー、エンジニア、支援者がそれぞれの思いを語っています。2014 年に開始して以来、Women Rock-IT には 200 万人が参加しており、そのうち約 87 万人がその後 Networking Academy コースに登録しました。

またシスコでは、STEM 分野に対する女子の関心を高める取り組みを教育業界のパートナーを通じて行っています。女子は男子よりも STEM 教育に触れる機会が少ないことが調査によって判明しています。特にその傾向が強いのが開発途上国の少女たちです。学校に通っている女子に機会を提供することは、STEM 分野の専攻やキャリアパスを後押しする強力な支援策になります。シスコは picoCTF と複数年のパートナーシップを結んでいます。picoCTF は無料のオンライン コンピュータ ハッキング コンテストで、ペンシルベニア州ピッツバーグにあるカーネギーメロン大学 (CMU) の CyLab Institute が米国の中高生を対象にして開催しています。シスコからの投資は、教師が picoCTF を日々の授業計画に組み込むのに役立てられています。これによって、女子生徒により多くの機会が提供されています。CMU は、シスコの投資によって picoCTF のプログラムへの女性参加者が増加したと助成金報告書の総括で述べています。



200 万人  
2014 年からの  
Women Rock-IT の  
累計参加者数



# 学習からキャリアへの架け橋



## パーパス実現への取り組み:

「Cisco Networking Academy がなかったら、サイバーセキュリティの仕事には就けなかったでしょう。サイバーセキュリティ入門コースを受講するまで、知識はほとんどなかったのです」

- Agnes Chege 氏

Agnes Chege 氏はケニアのナイロビにある電子機器企業でカスタマーサービスの仕事をしていたが、コロナ禍の初期に解雇されました。彼女はネットワークのスキルと情報科学の学位を持っていましたが、雇用機会は限られており、次のキャリアに進める見通しは立ちませんでした。

6 か月経ったある日、Cisco Networking Academy のパートナーであるケニア教育省から電子メールが届きました。サイバーセキュリティの入門コースがシスコの Women Rock-IT プログラムで無料提供されているという内容でした。彼女は Women Rock-IT のオンラインイベントに参加し、コースを受講し、そのデジタルバッジを LinkedIn のプロフィールに掲示しました。その後間もなく、セキュリティアナリストのインターンシップに関する打診がケニアのサイバーセキュリティ企業から舞い込みました。彼女は今もその企業で働いています。

「Cisco Networking Academy を知ったとき、真っ先に思い浮かんだのは、1 つの店舗であらゆるものが買えるスーパーマーケットでした。キャリアの方向性を与えてくれる選択肢が豊富に用意されているのが Cisco Networking Academy の良いところです」と Chege 氏は言います。

仕事に就いた Chege 氏は、さまざまな種類のサイバー攻撃、脅威、脆弱性を理解するなど、コースで獲得したスキルをすぐに活かすことができました。「脅威ハンティングが職務の中で特に気に入っています」と彼女は言います。Chege 氏は現在、サイバーセキュリティの意識向上トレーニングをクライアントに提供しています。また、女子向けのメンターシッププログラムに参加して自分の熱意を共有しています。彼女は現在も、Skills for All の自己ペースで学習できるコースや、Cisco Networking Academy のインストラクター主導のトレーニングを受講して、スキルを向上させ続けています。最後に、サイバーセキュリティのキャリアを考えている人に Chege 氏からのアドバイスを贈ります。「努力を惜しまず頑張りましょう！」



# 経済力向上

持続可能で再生可能な経済とは、自分自身や家族を養っていくのに必要な知識、スキル、機会を人々が獲得できる経済のことです。シスコは、それらのリソースに対する広範で公平なアクセスを促進するために取り組んでいます。その一環として、テクノロジーベースのソリューションの設計、提供、拡大に取り組んでいる非営利団体に、助成金、シスコのテクノロジー、従業員の時間や専門知識を提供しています。シスコの投資は、個人や家族の経済力向上を次の3つの方法で促進しています。

- **スキルからキャリアへ**: 文化的に重要な技術スキルおよび専門スキルのトレーニングやメンタリングを提供して、長期的なキャリア開発に結びつく有意義な仕事に就けるように支援
- **すべての人に対する金融支援**: 人々が安全にお金を貯めて利用したり、農業投入物を購入したり、学費を支払ったりできるように、手頃な価格の適切な金融商品やサービスを提供
- **起業**: 起業家がネットワークを構築し、メンターとつながり、投資家や資本にアクセスしてビジネスを立ち上げ、拡大できるように支援

非営利団体への資金提供だけでなく、表彰プログラムもシスコの戦略において重要な役割を担っています。社会起業家やチェンジメーカーは、資金を獲得できるコンペティションでアイデアを世界中に発信し、シスコからの助成金で自らのアイデアを形にできます。

## 実現した影響

### 起業家のアイデア実現を強力に支援

Cisco Global Problem Solver Challenge では、最も難しい世界の諸問題に対する解決策を起業家に求め続けています。2022年度は、10か国の15チームに100万米ドルを授与しました。大賞を受賞したのは Drop Access というケニアのチームで、25万米ドルが贈られました。このチームのソリューションである **VacciBox** は、太陽電池で駆動する低コストのポータブル冷蔵庫で、信頼できるコールドチェーンがなくてもワクチンを保存できます。ケニアの農村部にある医療センターでは、VacciBox を使用したことでワクチン接種率が3倍以上に増加しました。

気候変動を早急に緩和する必要性が高まってきたことから、「気候への影響および再生賞」というカテゴリを新設し、30万米ドルを授与しました。これらの賞は、GHG 排出量を削減または大気中から除去するソリューションや、枯渇した生態系を再生するソリューションを提案したチームに授与されました。2022年度は、すべての受賞カテゴリ全体に対して1,200件近くの応募がありました。受賞チームの67%は創設者が女性で、これまでで最も高い割合となりました。



### パーパス実現への取り組み:

「世界にイノベーションをもたらすのは起業家にとって大変な挑戦ですが、シスコのお墨付きを得ましたので、批判的な意見を気にせず邁進できます」

**Norah Magero 氏**,  
Drop Access, Cisco Global  
Problem Solver Challenge  
2022 大賞受賞者

### インドのコミュニティを支援

**インド助成金プログラム**では、人間に不可欠なニーズと危機対応、教育、経済力向上というシスコが重点を置く分野で活動している組織に資金およびアドバイザリサービスを提供しています。最近、Social Alpha という多段階型のベンチャー開発組織と提携して、Krishi Mangal を立ち上げました。Krishi Mangal はアグリテックスタートアップ企業を対象としたアクセラレータイニシアチブで、インドの農業イノベーションシステムのサイロ化を打破することを目的としています。同プログラムのスケールアップ アクセラレータの最初の cohorts では、スタートアップ企業5社が400万ルピー(約5万米ドル)の助成金を受け取って、新しい地域や市場セグメントに各社のソリューションを導入しました。プロセス全体を通じて、シスコのメンターがドメインに関する専門知識や市場に関する知識を提供して、チームがアイデアを拡大できるように支援しました。

### 食品廃棄物ゼロを目指すソリューションに資金を提供

2022年度は、シスコと Global Citizen がパートナーシップを結んでから4年目となり、「Global Citizen 賞: シスコ若年リーダーシップ賞」も4年目を迎えました。この賞では、コミュニティの貧困をなくすために有意義な活動を行っている18歳から30歳までの個人を表彰しています。2022年度の受賞者は Nidhi Pant 氏です。同氏は **S4S Technologies** 社というインドを拠点とする食品保存組織を2011年に共同設立しました。S4S社を設立したのは、農産物市場に着くまでに傷んだ食品が大量に廃棄されていることに Pant 氏と彼女のチームが気付いたのがきっかけでした。同社はこの課題に対処するために、太陽電池式の食品乾燥機を提供しました。農家はこれを使用することで収穫物を保存し、年間を通じて消費または販売できるようになり、個人事業主として活動することが可能になります。同社では、インドの農業で疎外されがちな女性の農家にこの乾燥機を提供しています。2022年度は、獲得した賞金によってさらに1,200人の個人事業主を支援できました。

経済力向上の詳細については、シスコの [ESG レポートハブ](#) をご覧ください。



# エネルギー 貧困に光を 灯す



電気のない生活では、日没とともに一日が終わります。サハラ以南のアフリカだけで 6 億人がそのような生活を送っています。街に出て発電機のあるキオスクを利用しないと、仕事や勉強はおろか携帯電話の充電さえできません。照明、暖房、料理のためにエネルギーが必要な場合は、火を起こすか、灯油を購入することになります。しかし、そうしたエネルギー源を利用すると室内の空気が汚染され、女性や一緒に家にいる幼い子供に特に大きな害を与えます。灯油は多くの場合、高い金額を払っても少量しか購入できません。その費用は世帯年収の 30% に達することがあります。

持続可能で手頃な価格のエネルギーサービスや製品が利用できないこのような生活は、エネルギー貧困と呼ばれています。シスコの助成を受けている **Solar Sister** は、この問題の解決に取り組んでいます。Solar Sister では、太陽電池で点灯するランタン、クリーンコンロ、ラジオ、換気扇、浄水器などの製品をコミュニティの人々に販売するトレーニングを女性起業家に提供しています。女性が女性のためにビジネスを行うこのモデルは、起業家と顧客の間に信頼を生み出し、サービスの行き届かない地域に製品を届けるのに役立っています。この組織は現在までに、7,400 人以上の起業家にクリーンエネルギービジネスを始める機会を提供しています。340 万人がエネルギーにアクセスできるようになり、100 万トン近くの CO2 排出が回避されています。現在シスコでは、Solar Sister の起業家がより高度なデジタルスキルを身に付け、より効率的に事業を運営して、さらに大きな影響を与えられるように支援しています。



画像提供：Solar Sister

## パーパス実現への取り組み：

「たった 1 つの電球が、家族の心身の充実に変化をもたらします。化石燃料を燃やす必要がないので環境に優しく、出費も大幅に抑えられます。灯油などに収入の 30% 近くも費やす必要はもうありません」

**Katherine Lucey 氏**  
Solar Sister、創業者兼 CEO





# 未来

## 地球の未来を持続可能かつ再生可能なものにする

「すべての人のためにインクルーシブな未来を実現する」には、住みやすい地球を維持するために全力を傾ける必要があります。シスコでは、持続可能で、インクルーシブで、復元力のあるデジタル化社会を実現するために、規模とイノベーションを活かしたさまざまな取り組みを行っています。たとえば、シスコの事業やサプライチェーン、シスコ製品全体で排出量を削減し、再生可能エネルギーの調達割合を増やし続けています。またお客様やコミュニティが環境に与える影響を減らし、変化する世界に適応できるように支援しています。さらに、サステナビリティと循環型経済の原則をビジネス全体に組み込み、水不足、廃棄物、汚染、種の多様性といった問題の解決を支援しています。



### このセクションの内容

- 45 気候変動
- 51 循環型経済
- 54 環境スチュワードシップ

# 気候変動

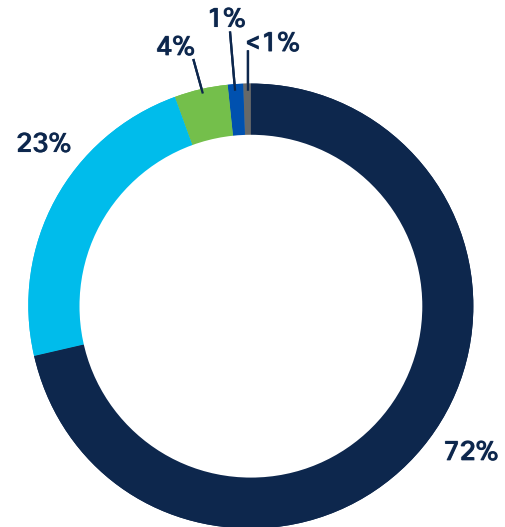
気候変動は、人々、コミュニティ、生態系、ビジネスに重大なリスクをもたらします。

シスコにとっても、気候変動は長期的な視点で戦略的に取り組まなければならない問題であり、責任あるイノベーションを進めて低炭素社会への移行を促進する大きな契機となっています。

大規模なグローバル企業であるシスコには、事業活動に関連する GHG 排出量を削減し、お客様が GHG 排出量を削減できるように支援する責任があります。シスコの排出量の大部分は、シスコ製品の使用によるものです。シスコ製品の多くは 24 時間年中無休で稼働し、数年間使用されるからです。次に大きな割合を占めているのが、シスコ製品の製造と輸送です。シスコの事業活動からの排出量は総排出量の 1% に過ぎませんが、再生可能電力を調達し、建物の効率を改善することで、事業活動からの排出量の削減に取り組んでいます。

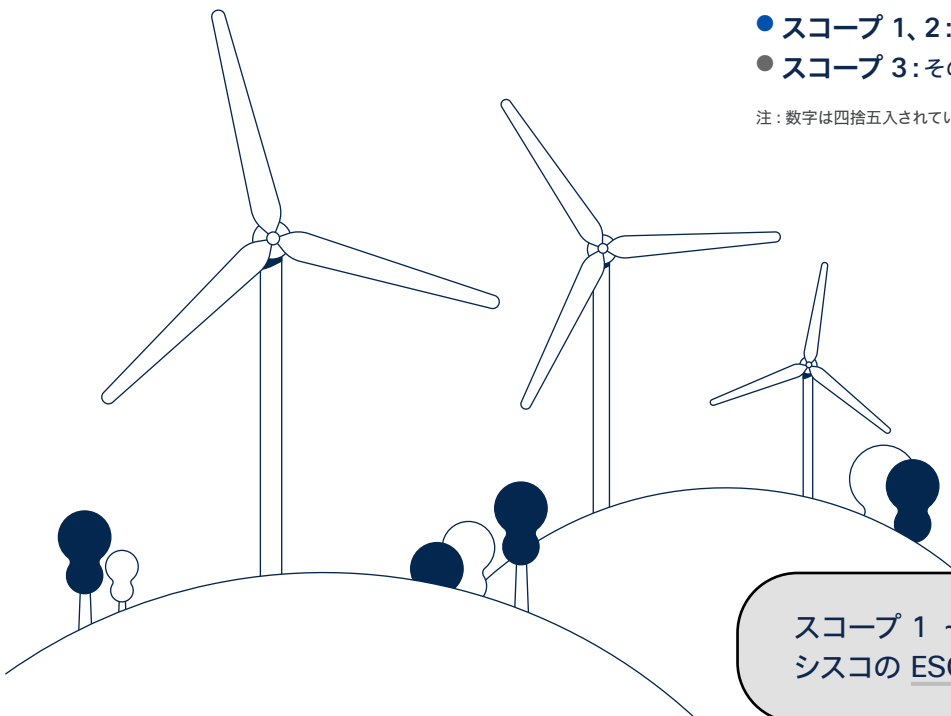
図 2:

2022 年度のシスコのスコープ 1、2、3 の排出量



- スコープ 3: 販売した製品の使用
- スコープ 3: 購入した製品とサービス
- スコープ 3: 輸送、配送 (上流)
- スコープ 1、2: シスコの事業活動
- スコープ 3: その他の全カテゴリー

注: 数字は四捨五入されているため、合計が 100% にならない場合があります。



スコープ 1 ~ 3 の排出量の詳細な内訳については、シスコの [ESG レポート](#) をご覧ください。

## シスコの気候目標

科学者の多くは、気候変動の最悪の影響を避けるために GHG 排出量を早急に削減する必要があると考えています。シスコは 5 年間の GHG 削減目標を 2008 年から設定して達成してきましたが、最近発表した目標はこれまでで最も意欲的なものとなっています。シスコは、2040 年までにバリューチェーン全体（スコープ 1、2、3）でネットゼロを達成するという目標を昨年度に設定しました。このネットゼロの目標では、次の 2 つの短期目標を掲げています。

- スコープ 1 およびスコープ 2 の絶対排出量を 2025 年度までに 90% 削減<sup>1</sup> (2019 年度基準)
- 購入した製品とサービス、輸送および配送（上流）、販売した製品の使用によって排出されるスコープ 3 の絶対排出量を 2030 年度までに 30% 削減 (2019 年度基準)<sup>2</sup>

2022 年度は、このネットゼロの目標と 2 つの短期目標に向けた進捗状況を初めて報告します。2022 年 7 月、シスコの目標は SBTi の新しいネットゼロ基準を満たしていることが確認され、承認されました。この基準では、気象科学の要請に沿ってネットゼロの目標を設定するための一貫したアプローチが提供されています。特に、世界の気温上昇を産業革命以前と比べて 1.5°C に抑えることが必要とされています。シスコは、テクノロジーハードウェアおよび機器企業の中でもいち早くネットゼロ目標を設定しており、シスコの目標は SBTi のネットゼロ基準を満たしていることが承認されています。また、シスコは SBTi の Business Ambition for 1.5°C キャンペーンに参加しました。このキャンペーンでは、気象科学で要請されているペースと規模を満たす堅牢な排出削減目標の導入を推進しています。



### ネットゼロの目標

#### 2040 年までに：

スコープ 1、2、3 の絶対排出量を 90% 削減して GHG 排出量ネットゼロを達成<sup>1</sup> (2019 年度基準)。

→ **進行中。下の短期目標で進捗状況を報告しています。**

### 短期目標

#### 25 年度までに：

スコープ 1 とスコープ 2 の絶対排出量を 90% 削減<sup>1</sup> (2019 年度基準)。

→ **進行中。39% 削減**

#### 30 年度までに：

購入した製品とサービス、輸送および配送（上流）、販売した製品の使用によって排出されるスコープ 3 の絶対排出量を 30% 削減 (2019 年度基準)<sup>2</sup>。

→ **進行中。22% 削減 (シスコが現在使用しているスコープ 3 排出量の計算方法に基づく。今後変更される可能性あり)**

<sup>1</sup> また残りの排出量は大気中から同量を除去することで中和

<sup>2</sup> この目標は、2030 年度までにシスコのサプライチェーン関連のスコープ 3 GHG 絶対排出量を 30% 削減するという以前の目標を拡張したものであり、販売した製品の使用が含まれています。2030 年度の目標に対して報告される基準値や進捗状況には、製造、部品、倉庫サプライヤから購入した製品とサービス、シスコが購入した航空輸送からの輸送および配送（上流）、販売した製品の使用が含まれます。

これらの目標に向けた進捗状況の詳細については、[ESG レポートハブ](#)をご覧ください。



## 実現した影響

### 製品からの排出量を削減

シスコでは、サステナビリティと循環型経済の原則を製品設計に組み込むように努めています。新製品を設計する際、電力とパフォーマンスは常にトレードオフの関係にあります。製品の使用に伴う排出量を削減するために、シスコでは電力、熱、高速相互接続と ASIC、お客様の施設への統合という 4 つの主要分野で改善を進めています（詳細については ESG レポートハブをご覧ください）。2022 年度はエネルギー効率の目標を達成しており、大規模なラックマウント機器システムの電力効率（施設、基板実装 ASIC、メモリ、その他のチップデバイスで生じる入力電力を測定）を 87% に高めました。この目標を達成する際には、4 つの改善分野のうち 3 つに焦点を当てました。それが、高効率電源の使用、ASIC の配電の最適化、システムの配電の最適化です。

2022 年度は Engineering Sustainability Office を新設しました。このグループの設立目的は、バリューチェーンの脱炭素化を促進し、お客様がサステナビリティ目標を達成できるように支援することです。シスコの全エンジニアリングチームと連携し、他部門と協力して、測定可能な成果を目指す 1 つのロードマップに基づいて持続可能な製品、オファー、ソリューションを設計しています。

### パーパス実現への取り組み：

「電力とパフォーマンスのバランスを取るには、社内チームによる絶え間ないイノベーションが必要です。そうしたイノベーションをチームで促進する方法の 1 つとして、ネットゼロチャレンジがあります。このチャレンジでは、エネルギー効率を高め、消費電力を削減するためのアイデアを CHG の全メンバーにブレインストーミングしてもらいました。設計シミュレーションの向上、ファンの改善、ソフトウェア/ハードウェアの相互作用、お客様環境といった新しいアイデアが得られました」

**Beth Kochuparambil,**  
共通ハードウェアグループ  
(CHG)、テクニカルリード



## シスコは次の 3 つの分野でイノベーションを推進：



### 持続可能なデータセンター

データセンターでは、大量のデータを処理するために継続的なエネルギー管理が必要です。モジュール設計を活用し、電源には 80 Plus Titanium 認証電源および Platinum 認証電源の両方を採用した新しい Nexus 9800 シリーズ スイッチは、400G GX ベースの Nexus 9500 シリーズと比べて効率が 1.6 倍に向上していることがシスコのラボテストにより確認されています。



### ハイブリッドワーク

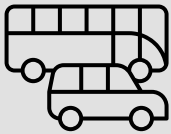
Webex は、働きやすく、安心して働ける安全な勤務環境を実現する統合ソリューションです。製品ライフサイクル全体での（製造されてから場所に関係なく 5 年間使用される場合の）Webex Desk Pro の排出量は、長距離フライトの利用を 1 人の個人が 1 回控えるだけで相殺できます。



### スマートビルディング

Cisco Meraki は、省エネ、資産追跡、リモート IT 管理機能を提供します。建物内でスマート IoT センサーが接続されていて、低電圧の Power over Ethernet ケーブルでそれらのセンサーが稼働している場合は、データを活用することで建物の運用をより詳細に制御して、電力消費量を削減できます。

# 電気自動車 (EV) に対応できる 送電網の実現



ガソリン車の段階的廃止に向けて動き出す国が増えており、電気自動車への乗り換えを考える消費者も増えています。しかし、数百万台の電気自動車が同時に充電した場合の需要に対応できる送電網は必ずしも整備されていません。

V2G (Vehicle-to-Grid) テクノロジーは、送電網にかかる負担、特に充電のピーク時間帯における負担を緩和するのに役立つ可能性があります。このテクノロジーでは、電気自動車 1 台 1 台をバッテリーとして利用して、ネットワークや建物に電力を供給できます。V2G はまだ概念として提唱されているに過ぎませんが、シスコは V2G の商業化を見据えたパートナーシップを最近結びました。

E-Flex プロジェクトは、シスコの Country Digital Acceleration (CDA) プログラムやインペリアル カレッジ ロンドンなどのさまざまなパートナーによる共同イニシアチブであり、公共部門や民間部門の組織が所有する車両を使用して V2G の可能性を証明しようとしています。英国内の 20 の場所に双方向充電ステーションが設置されてデータが収集されています。シスコはこのプロジェクトのリードパートナーとして、Umbrella クラウド セキュリティ ソリューションを使用して充電ステーションに安全な接続を提供し、Cisco Meraki カメラを設置して物理的なセキュリティを確保しています。

V2G の効果が大規模に証明されれば、低炭素社会を実現するうえで不可欠なテクノロジーとなり、エネルギー管理者が運用コストを削減するのに役立つ可能性があります。このプロジェクトは、そのような未来の一端をうかがわせるものとなっています。「再生可能エネルギーに加えて、車両を地域のエネルギー貯蔵庫として利用できるようになります」と語るのは、英国およびアイルランドのシスコイノベーション責任者である Peter Shearman です。V2G テクノロジーは、再生可能エネルギーのマイクログリッドを備えたスマートビルディングやビジネスパークに導入できます。「これが実現すれば、再生可能エネルギーの発電量の変動を補えるようになり、スマートビルディングでネットゼロを達成しやすくなります」。



多くのドライバーが当たり前のように電気自動車を電源につないでいますが、すべての人がつなぎ始めたとき、送電網はそれに耐えられるでしょうか？





89%  
2022 年度にグローバル  
で使用した電力に占め  
る再生可能エネルギー  
の割合

シスコは、施設が環境に与える影響を軽減する取り組みを 15 年以上にわたって開発し、実施してきました。シスコの事業活動からの GHG 排出量は総排出量の 1% に過ぎませんが、再生可能電力を調達し、オフィス、ラボ、データセンターの効率を改善することで、事業活動からの GHG 排出量の削減に取り組んでいます。シスコが以前掲げていた目標は、スコープ 1 および 2 の排出量を 60% 削減する（2007 年度基準）というものでした。2017 年度から 2022 年度末までに約 6,000 万米ドルを投資して、事業全体で何百ものエネルギー効率プロジェクトを実施し、この目標を達成しました。2025 年度までにスコープ 1 および 2 の排出量を 90% 削減する（2019 年度基準）という目標を達成するために、2023 年度から 2025 年度にかけてさらに 3,900 万米ドルを投資して、効率化、再生可能エネルギー、電化プロジェクトに引き続き資金を提供していきます。

再生可能電力の使用を増やすことは、シスコの戦略の基本要素となっています。2022 年度には、シスコが世界で使用する電力の 89% を再生可能エネルギーから調達しました。米国、カナダ、ヨーロッパのいくつかの国では 100% 再生可能エネルギーとなっています。オンサイトとオフサイトの両方で再生可能エネルギーの取り組みを強化しており、2025 年度末までに約 5 MW のオンサイト太陽光発電を新たに導入し、500 MW を超す再生可能エネルギーの長期契約を新たに結ぶことを目指しています。インドとヨーロッパでは長期電力購入契約（PPA）の評価を積極的に進めており、合計で 100 MW を超す太陽光および風力発電開発がこれらの地域で新たに行われます。

## シスコの施設や直接的な事業活動に焦点を当てる

シスコでは、環境保全を事業活動に組み込むことを目指しています。従業員の心身の充実や生産性を促進する職場を構築して維持する取り組みもその一環です。私たちはハイブリッドワーク戦略を通じて、持続可能な建物に関するプラクティスや基準を施設の設計、運用、保守に組み込んでいます。シスコはハイブリッドワークに移行するためにコラボレーションハブに投資しています。場合によっては、リースまたは所有しているオフィススペースを削減して、他の優先分野への再投資を行っています。2017 年 8 月から 2022 年度末までに、不動産の面積は 16% 減少しました。2022 年度までに 40 のシスコの施設がグリーンビルディング認定を取得しています。たとえば米国グリーンビルディング協会の LEED® (Leadership in Energy and Environmental Design) や国際ウェルビルディング協会の WELL 認定などです。さらに 5 つの施設が認定取得に向けて取り組んでいます。これらの認定済みスペースは、シスコのビルディングポートフォリオの 22% を占めています。ニューヨーク市の Penn 1 にあるオフィススペースの改装では、持続可能な建物の原則、シスコのコラボレーションテクノロジー、ハイブリッドワークの原則を組み合わせ、直感的で魅力的なワークスペースを作り上げています。

また、グローバルデータセンターをより持続可能なものにするために、持続可能な設計、最適化された運用、エネルギー管理、資産の回収と再利用、責任ある調達に重点を置いて取り組んでいます。2016 年以来、データセンターの電力消費量を 40% 削減し、機器の内部再利用を大幅に増やし、施設のデータセンターのコストを 23% 削減しました。

2022 年度に  
34 件  
のエネルギー効率プロジェクトを実施して年間約  
14.5 GWh のエネルギー消費と 8,000 トンの  
CO2 排出を削減

シスコの事業活動における環境への取り組みの詳細については、シスコの [ESG レポートハブ](#) をご覧ください。



## サプライチェーンの参画

シスコのサプライヤーは世界中で部品を提供し、製品を組み立て、テストし、お客様に出荷しています。そのため、シスコの GHG フットプリントの約 4 分の 1 がサプライチェーン関連のスコープ 3 排出量となっています。私たちはこの数年間、航空輸送から海上輸送への移行を可能な限り進めてきました。また、サプライヤーと協力して GHG 絶対排出量の削減目標を設定し、GHG 排出削減の進捗状況を CDP に毎年報告して透明性を確保するようサプライヤーに求めてきました。

クリーンエネルギーの使用を全世界で促進することは、排出量を削減するための重要な手段となっており、お客様、サプライヤー、政策立案者と協力して進歩を促進していくことが必要です。シスコは、Clean Energy Buyers Association や米国環境保護庁の Green Power Partnership などの組織と提携しています。2022 年度は、アジア太平洋地域のサプライヤーを対象とした再生可能エネルギーの取り組みを GHG 排出削減計画の一環として開始しました。また、[Asia Clean Energy Coalition](#) に創設メンバーとして参加しました。これは NGO、再生可能エネルギーの購入者、販売者、融資機関からなる連合で、アジアにおける政策転換や企業における再生可能電力の調達増加に焦点を当てています。私たちは、新しい再生可能エネルギーを電力網に取り入れることを視野に入れて、長期 PPA を通じて再生可能エネルギーの調達を短期間で増やす戦略を積極的に推進しています。排出削減活動へのサプライヤーの参画の詳細や、2030 年の目標達成に向けた成果については、[ESG レポートハブ](#)をご覧ください。

### パーパス実現への取り組み:

「多様な視点から適切な情報が得られ、さまざまな管轄区域が協力し合えば、壊滅的な森林火災にも対処できることが分かってきました。データが収集され、計画が立てられていく現場を目の当たりにしたのです。共同計画の近代化と改善を図り、最高の科学的手法を手軽に利用する方法が見えてきました。何をすべきかが分かった以上、動かないわけにはいきませんでした」

**Allison Wolff 氏**  
Vibrant Planet (Cisco Foundation の資金提供先)、  
共同創設者

### 25 年度までに:

シスコの部品、製造、物流サプライヤーの 80% (調達額の割合) に、GHG 絶対排出量の削減目標を公式に設定してもらう。

→ 対象サプライヤーの 78%

## シスコのビジネスを超えて脱炭素化に取り組む

私たちは、シスコやお客様のフットプリントだけでなく、より広い視点でも脱炭素化を推進しています。シスコは、革新的な気候変動対策を支援するためにさまざまな取り組みを行っています。1 年前、Cisco Foundation は気候変動対策への資金提供として 10 年間で 1 億米ドルを投資する取り組みを始めました。2022 年度末までに、Cisco Foundation は初期段階にあるソリューションに約 1,100 万米ドルを拠出しました。概念的なアイデアの段階にあるものから、商用展開して広範に影響を与えることが可能なものまで、さまざまな開発段階にあるソリューションに資金が提供されました。いろいろ取り混ぜたこの資金提供アプローチは、気候変動対策における大きな資金調達不足を解決し、影響を促進するのに貢献しています。

また、Cisco Digital Sustainability Challenge も 2022 年度に開始しました。これは、シスコのテクノロジーを使用してお客様が気候問題に取り組み、サステナビリティの目標を達成するのを支援している [米国および世界中](#)のシスコパートナーを対象としたコンテストです。GHG 排出量、廃棄物、またはエネルギー消費量を大幅に削減し、気候イノベーションを促進し、コラボレーションを実現するソリューションを表彰しています。2022 年の Cisco Global Problem Solver Challenge では「[気候への影響および再生賞](#)」というカテゴリを新設しました。この賞は、GHG を削減または大気中から除去するソリューションや、枯渇した生態系を再生するソリューションを対象としています。2022 年度のチャレンジではスタートアップ企業 5 社に合計 30 万米ドルを授与しました。農業汚染を減らし、クリーンエネルギーへのアクセスを促進し、持続可能な漁業を実現し、農家に植林を奨励するソリューションを表彰しています。

また、異常気象、洪水、干ばつ、食糧不足、人口移動など、気候変動の最も深刻な影響に直面している人々を [Cisco Crisis Response](#) を通じて支援しています。シスコの製品やソリューションは、お客様、地域社会、政府が気候変動に対する復元力を高め、その影響に見舞われても接続を維持できるインフラを提供します。

# 循環型経済

シスコは製品寿命を延ばし、材料廃棄物を削減するために取り組んでいます。

私たちは、消費する資源や発生する廃棄物が少ない再生可能な循環型モデルに向かって進化しています。このアプローチでは、リサイクル素材を含んだ材料を優先し、資源効率を高める製品設計を採用し、修理、再生、リサイクルを促進して製品寿命を延ばしています。

お客様のデータのセキュリティは、循環型経済の重要な要素となっています。修理や再利用においては、セキュリティ機能を使用し、返品された製品に残っているお客様データを削除することに引き続き力を入れています。

2021 年度は、製品におけるバージンプラスチックの使用量を 20% 削減する（2018 年度基準）という目標を上回ることができました。この勢いに乗って、また目標から得た主な教訓に基づいて、2025 年度までにシスコ製品で使用されるプラスチックの 50% をリサイクル素材にする（重量基準）という新しい目標を最近設定しました。

## 循環型経済の目標

**25 年度までに:** シスコ製品の梱包に使用している発泡緩衝材を重量基準で 75% 削減（2019 年度基準）。

→ **23% 削減**

**25 年度までに:** 製品梱包の梱包効率を 50% 向上（2019 年度基準）。<sup>1</sup>

→ **累計で 36% 向上**

**25 年度までに:** シスコの新製品と梱包の 100% に循環型設計の原則を導入。<sup>2</sup>

→ **4% が循環型設計の基準に適合**

**25 年度までに:** シスコ製品に使用されるプラスチックの 50%（重量基準）をリサイクル素材に変更。<sup>3</sup>

→ **23 年度の新目標: 未報告**

**25 年度までに:** シスコの部品および製造サプライヤの 70%（調達額の割合）が、1 つ以上の拠点で廃棄物ゼロ転換を達成。<sup>4</sup>

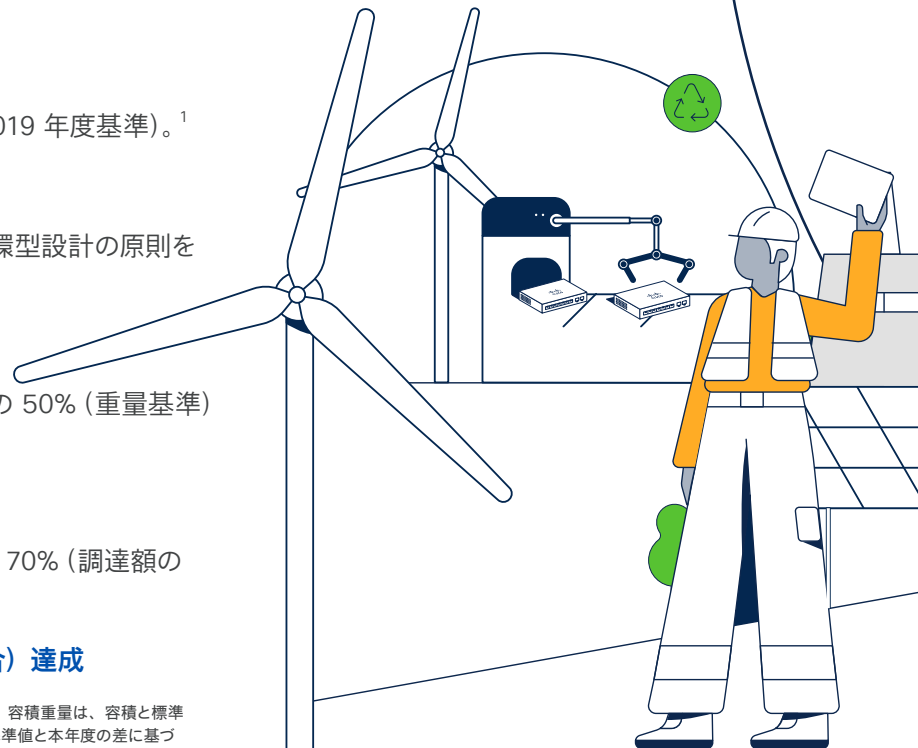
→ **少なくとも 1 つの認定施設で 51%（調達額の割合）達成**

<sup>1</sup> 梱包効率は、容積重量を使用して製品サイズを梱包と比較することで測定しています。容積重量は、容積と標準容積係数を使用して計算した梱包重量です。この方法では、正規化した容積重量の基準値と本年度の差に基づいて梱包効率の指標が算出されます。

<sup>2</sup> 2022 年度にスコアリングツールをソフトローンチして新製品および梱包の 13% を評価したところ、33% が循環型設計の基準を満たしていました。したがって、2022 年度にリリースされた新製品および梱包全体の 4% が循環型設計の基準を満たしていたこととなります。このスコアリングツールは 2023 年度の初めにすべての事業部門で正式にローンチされたため、2023 年度には評価される新製品および梱包の範囲が広がるものと予想されます。

<sup>3</sup> この目標では、サプライヤから調達される汎用部品（プラスチック製のネジ、ファン、ケーブルなど）に含まれているプラスチックは対象外です。

<sup>4</sup> 認定プロトコルにおける現在の標準的な定義によると、「廃棄物ゼロ」転換とは、無害な固形廃棄物について、全体の 90% 以上を埋め立て、（廃棄物発電を行わない）焼却、および環境から転換することとされています。転換方法には削減、再利用、リサイクル、または堆肥化処理が含まれます。



循環型経済の詳細については、シスコの ESG レポートハブをご覧ください。

# 実現した影響

## 循環型設計の理念を実践する

循環型設計とは、再利用、環境への影響と使用する資源の最小化、イノベーションの促進、ステークホルダーにとっての価値実現が可能な製品とシステムを設計することです。私たちは、循環型設計の目標に向けた進捗状況を追跡するのに役立つ設計評価の方法論を2021年度に策定しました。この方法論を採用した初年度は、新製品および梱包のうち13%の設計をその方法論に従って評価、採点し、そのうち33%が循環型設計の基準を満たしていることを確認しました。私たちはこの評価プロセスを製品開発ライフサイクルに浸透させるために取り組んでいます。

たとえばシスコのNCS1K製品ファミリーは、コントローラカード、光インターフェイス、ファントレイ、電源で構成されています。このような複雑なシステムでは、循環性を実現するために慎重な設計が求められます。NCS1Kチームは、冗長ファン構成（一方を稼働しながら他方を修理可能）、簡単に交換できるモジュール、再生業者がラントタイムデータを確認できる稼働時間カウンタを採用することで、何度もライフサイクルを重ねられるデバイスを開発しました。

梱包とアクセサリは、シスコの循環型設計の重点分野になっています。標準構成から外してもよいアクセサリを精査して、パージンプラスチックの使用を可能な限り減らしています。2022年度の最新のイノベーションと与えた影響をご紹介します。

- 多くの製品ラインでプラスチックを再生板紙やワックスペーパーなどのより持続可能な資材に置き換え、電源コードについてはビニール袋をスキャン可能なラップに置き換え

### → 400万個のMerakiアクセサリを、70%がリサイクル素材でできた紙ベースの梱包で出荷

- 使用されないアクセサリの量を減らして廃棄物の発生を避けるために、「電源コードなし」オプションを何千もの製品構成に追加し、使い捨ての静電放電ストラップをエンタープライズ製品のアクセサリキットから除去

### → 205,000本の電源コードの出荷や関連する梱包を回避

- いくつかの製品ラインで同じくプラスチックベースの素材である発泡梱包材をより持続可能な素材に置き換え、Catalyst IR8140 Heavy Duty ルータの梱包では重量のある製品で使用されることが多いフォームクッションの代わりにシスコ初のファイバフルート材を使用

### → シスコ製品全体で37,273ポンドの発泡材を削減

- 材料の全体的な使用量を削減するために、梱包における段ボールの使用量をいくつかの取り組みを通じて削減。マルチパック梱包による製品出荷や、使用されないアクセサリを除去して関連する梱包を回避するなど

### → 70万ポンドを超す段ボールを削減（100万個以上のピザ箱に相当）

## 製品の販売から再利用まで、循環型経済を組み込む

私たちは、お客様がサステナビリティの目標を達成するうえで重要な役割を果たせると考えています。as-a-service モデルを検討するお客様や、使用する機器のライフサイクルを延ばしたいお客様が増えています。2022年度、Cisco Capital は [Cisco Green Pay](#) を開始しました。この支払いソリューションを利用すると、お客様は持続可能なテクノロジー戦略を構築しやすくなり、ESGの目標を達成できます。このプログラムによって、シスコの持続可能なソリューションを入手するための道があらゆる規模のお客様に提供されます。このプログラムでは、お客様が5年間にわたって計画的に代金を支払います。所有権はシスコが保持しますが、機器に対する5%のインセンティブが最初にお客様に提供されます。シスコではこのプログラムの他にも、製品の返品と再利用に焦点を当てたプログラムを長年提供しています。私たちはそれらのプログラムを通じて、シスコが署名した [PACE Capital Equipment Pledge](#) に向かって前進しています。



# 循環型経済への シスコパートナーの参画



シスコの顧客ベースは、世界中に広がるパートナーエコシステムによって支えられています。2022年度は、このコミュニティがサステナビリティについてお客様と積極的に会話を交わせるよう取り組みました。シスコは、すべてのシスコパートナーが取得できる新しいビジネス スペシャライゼーションである Environmental Sustainability スペシャライゼーション (ESS) を開始しました。

このスペシャライゼーションでは、シスコのサステナビリティに関する取り組みを支援しているパートナーを認定しており、パートナーがお客様に適切な情報を提供し、製品の回収を促進し、循環型ビジネスモデルへのお客様の移行を支援し、パートナー独自のサステナビリティ プラクティスを推進できるようにしています。ESS パートナーがお客様に提供できるメリットの1つとして、シスコの新しい Takeback インセンティブがあります。このインセンティブでは、使用済みのハードウェアをシスコに返品することを約束したお客様に、新製品に対して最大7%の追加割引を適用しています。

「スペシャライゼーションを活用し、お客様が循環型経済に参加できるように支援したことで、当社の業績はすぐに大きく向上しました。今後もビジネスの拡大に大きく貢献してくれるでしょう」

**John Samz 氏**

Core BTS 社、シスコチャネルアライアンス担当シニアバイスプレジデント



# 環境スチュワードシップ

気候変動、汚染、廃棄物などの環境問題では、社会経済的弱者にあたる集団が不釣り合いに大きな影響を受け、環境問題の影響に対する復元力が弱い状況になりがちです。

これらの問題は、人道的危機を招き、ビジネス、送電網、水の供給に混乱を生じさせる恐れがあります。シスコは、プラスの変化をもたらす原動力となることを目指しており、持続可能な資源スチュワードシップのベストプラクティスを共有し、弱い立場にある労働者やコミュニティと連携して人権や環境の保護に取り組んでいます。

## 実現した影響

### 世界中で水の使用量を削減

シスコは、直接事業で大量の水を使用していませんが、事業活動やサプライチェーンにおける水の消費量をできる限り削減するように努めています。シスコのサプライチェーンでは、水は環境問題であると同時に人権問題でもあります。水問題を抱えた地域で事業を行うサプライヤーは、自社のニーズと周辺コミュニティのニーズのバランスを取る必要があります。シスコは調達額が上位のサプライヤーに対して、水の使用量の目標を設定して報告し、水資源の安全性に関する CDP のアンケートに回答するように求めています。

2022 年度は部品サプライヤー 8 社と連携し、Alliance for Water Stewardship と共同開発した水資源チェックリストを使用して、水の使用量の基準値と改善計画を策定しました。シスコは Institute of Public and Environment Affairs (IPE) とのパートナーシップを継続して、中国本土にあるサプライヤー拠点から生じる環境リスクの回避と軽減に取り組んでいます。シスコは Green Supply Chain の取り組みで IPE から評価され、2022 年末に Corporate Information Transparency Index の IT 産業分野で 1 位を獲得しました。

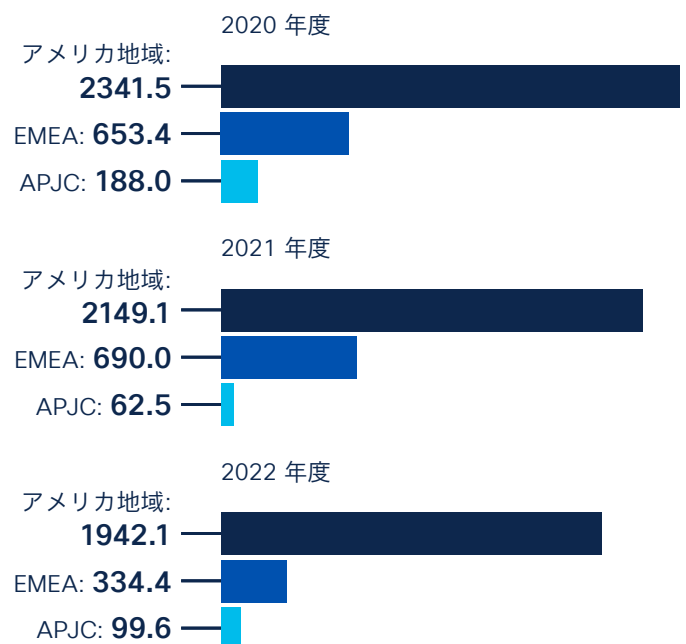
環境スチュワードシップの詳細については、シスコの [ESG レポートハブ](#) をご覧ください。



シスコは、事業活動における水の使用量とリスクを 水資源の安全性に関する CDP のアンケート と ESG レポートハブ で報告しています。影響を抑えるために、水問題を抱えている地域にある拠点では水資源の管理プロジェクトを優先しています。たとえば、インドのバンガロールにあるキャンパスでは包括的な水資源管理システムを維持しています。このキャンパスではゼロ排水を実現しています。つまり、敷地外や環境への排水が行われません。排水は最近改修された 2 か所の下水処理場に送られます。処理後の水は、キャンパスの蒸発冷却システム、景観灌漑、トイレ洗浄に利用されます。

図 3:

### 総取水量 (1,000 m<sup>3</sup>)



## 廃棄物に関する進捗状況

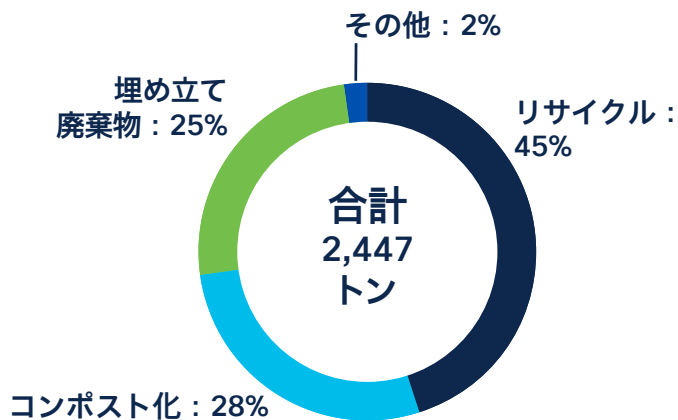
シスコでは、再利用、リサイクル、堆肥化、寄付を通じて廃棄物の量を減らす取り組みを進めています。2022年度は、事業廃棄物の75%を埋め立てずに転用しました。ISO 14000 認証を取得した拠点ではさまざまな取り組みを行っています。また、直接的な事業活動の中で電子廃棄物を再利用およびリサイクルするプログラムも実施しています。カリフォルニア州サンノゼにあるシスコ本社では、強力な廃棄物転換プログラムを引き続き実施しており、2022年度は廃棄物全体の88%を埋め立てずに転用しました。

シスコではハイブリッドワークへの移行を世界中で進めており、オフィスの占有率は依然として低くなっています。これは廃棄物削減活動の実施能力にも影響を与えています。オフィスで働く従業員が減れば、キャンパスで発生する廃棄物も大幅に減り、転用も少なくなります。

廃棄物に関する取り組みではサプライヤの参画も推進しています。シスコでは、2025年度までに製造および部品サプライヤが1つ以上の拠点で廃棄物ゼロの転換率を達成することを目標に掲げています。2025年度のサプライヤ廃棄物転換目標に向けた2022年度の進捗状況の詳細については、[ESG レポートハブ](#)をご覧ください。

図 4:

### シスコの廃棄物処理の状況



## 生息地と種の保護

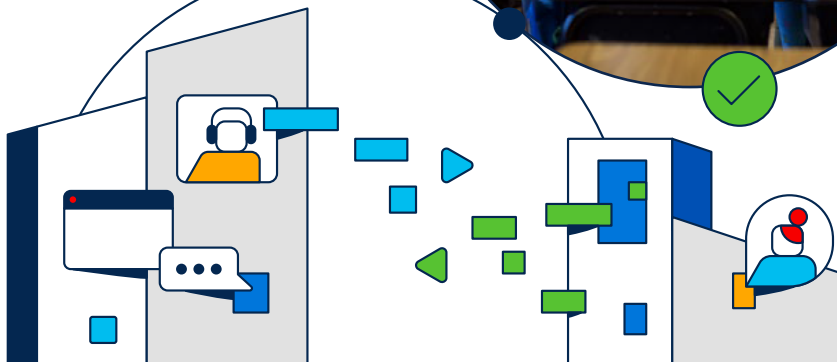
気候変動や環境悪化によって生息地の喪失が加速する可能性があるとしてシスコでは考えています。生息地が失われると、森林や海岸線の生態系など、異常気象を緩和していた自然の防御が損なわれて、気候変動の影響がさらに加速します。私たちは事業活動においても、事業活動以外でも、自然界や種を保護するために全力を尽くしています。2015年以來、[Connected Conservation](#) を通じて、世界中の絶滅危惧種を保護するためにシスコの監視、データ、分析テクノロジーが使用されてきました。Connected Conservation は、動物が自由に動き回れるようにしながらプロアクティブに保護する初めてのソリューションです。2022年度は300万ヘクタールがConnected Conservationに追加されました。これで合計500万ヘクタールの自然がケニア、南アフリカ、ザンビアで接続され、保護されています。現在、9つの自然保護区にリアルタイムデータを収集するテクノロジーが導入されています。このデータの分析結果は、野生生物の保護に関する進行中の研究やイノベーションに役立てられています。





# すべての人のために

世界が少しずつ開放に向けて動き出した2022年は、人がつながる力を改めて感じることができました。お客様、パートナー、サプライヤ、従業員と協力し、世界中のコミュニティで人々と連携し、大小さまざまな組織と各地域や世界規模で協力して、持続的で有意義な影響を促進できました。このつながりこそがシスコの目指しているものであり、全員が協力して取り組むことで、すべての人のためにインクルーシブな未来を実現できるのです。





## 米国本社

サンノゼ (米国カリフォルニア州)

## アジア太平洋本社

シンガポール

## ヨーロッパ本社

Amsterdam, The Netherlands

シスコは世界各国に約 400 のオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト ([www.cisco.com/jp/go/offices](http://www.cisco.com/jp/go/offices)) をご覧ください。

シスコおよびシスコのロゴは、米国およびその他の国におけるシスコおよびその関連会社の商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、[www.cisco.com/jp/go/trademarks](http://www.cisco.com/jp/go/trademarks) をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(111OR)

© 2022 Cisco and/or its affiliates. All rights reserved. This document is Cisco public information.

バージョン 1.4: 2022 年 4 月

## 将来の見通しを示す記述

このレポートには、適宜修正される 1933 年証券法および 1934 年証券取引所法に基づいて定められたセーフハーバーの対象となる将来の見通しを示す記述が含まれています。史実の記述を除くすべての記述は、将来の見通しを示す記述とみなされる可能性がある記述です。それらの記述は、シスコがビジネスを行っている業界に関する現在の期待、予想、予測、推定、およびシスコ経営陣の信念と想定に基づいています。「期待される」、「予想される」、「目指す」、「目標とする」、「推定される」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「向かっている」、「追求する」、「予想される」、「継続する」、「努める」、「取り組む」、「可能性がある」、およびそれらのバリエーションや類似表現は、そのような将来の見通しを示す記述を示すことを目的としています。さらに、次のものに言及するあらゆる記述も、将来の見通しを示す記述に該当します。(1) シスコの目標、公約、プログラム、(2) シスコの事業計画、取り組み、目的、(3) シスコの想定と期待、(4) シスコの企業責任のリスクと機会の範囲および影響、(5) 第三者の基準および期待。将来の見通しを示すこれらの記述は予測に過ぎず、予測困難なリスク、不確実性、想定 (Form 10-K および Form 10-Q で証券取引委員会に提出した最新の書類に記載されているものを含む) の影響を受けることにご注意ください。将来の見通しを示す記述はその記述を行った時点でのものであり、シスコは将来の見通しを示す記述を更新するいかなる義務も負いません。